小学校音楽科における授業再開後の指導事例集

教育芸術社　第一編集部

学校の授業再開後に音楽の授業を行う際、歌唱や一部の器楽の活動等が制限される状況が予測されるため、先にその対応の方法について例示いたしましたが、このたび改めて、各学年の教科書の題材及びそれに含まれる教材の指導において、特段の配慮を必要とするものについて、具体的な指導事例を作成いたしました。

今後の指導計画作成並びにご指導にあたって、お役立ていただければ幸いです。

第１学年　　題材１「うたって おどって なかよく なろう」
♪ みんなで いっしょに うたって，ともだちを つくりましょう「**うたって なかよし**」(1～2 時間)

●今　何をする？●

★絵の中から歌を見付け，体を動かしながら範唱を聴く活動を中心に行うようにします。
☆電子黒板やプロジェクター等を活用し，教科書の挿絵を拡大して掲示すると効果的です。また，文字の理解が難しいときは，動物や植物などのイラストを黒板に示すことも考えられます。

１　見て，聴いて

◎「どんな歌が隠れているかな？」

⑴　教科書の挿絵を見ながら，描かれている動物や植物などを見付け，パントマイムで発表する。
　例）ことり：手をつばさのように動かす
　　ぞう　：手を長い鼻のように動かす　等

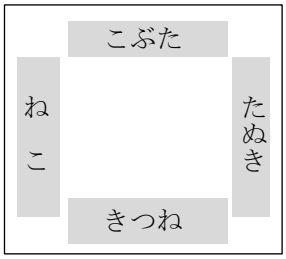
⑵　子供が絵から見付けた動物や植物などから，どんな歌があるかを考える。
- 教師は，子供から出た曲名を文字やイラストで板書する。
- 子供が見付けられなかった歌については，「先生も見付けたよ！」と，挿絵を示しながら紹介する。

２　聴いて，動いて

◎ 「歌を聴きながら，体を動かそう！」

⑴　子供が見付けた歌を，指導用 CD を聴きながら確かめる。
- 子供が見付けた歌を一度に全部聴くのは，集中力が続かないので，「今日は３曲聴いてみよう」など，毎回の音楽の授業のはじめに聴くようにすると，楽しみが持続する。

⑵　子供たちが一番よく知っている歌を数曲選んで，指導用 CD の範唱に合わせて体を動かす。
　例）「こぶたぬきつねこ」：
- こぶたチーム，たぬきチーム，きつねチーム，ねこチームの４つに分かれる。それぞれのチームで距離を保ちつつ，それぞれの代表児童が前に出る。
- 代表児童は，自分の担当する動物のときに体を動かす。
- 各チームは，コール（歌詞をまねて歌う）する代わりに，代表者の動きを模倣する。



　例）こぶたチーム　　代表児童　♪こぶた，ぶぶぶー ＝ 鼻を指で上げる
　　チーム　　♪こぶた，ぶぶぶー ＝ 代表児童の模倣

●評価

知　**歌詞の表す様子，旋律，リズム，拍と曲想との関わりに気付いている。**
態　**挿絵から見付けた歌や遊びうたに興味・関心をもち，歌に合わせて体を動かす学習に楽しんで取り組もうとしている。**

●これからどうする？●

帰りの会を始める準備の際，子供が見付けた歌を BGM にします。生活の中で何度も聴くことで，歌唱活動が可能になったときに無理なく歌うことができます。音楽の授業のはじめや終わりに常時活動として動くなどしながら，歌を楽しむ準備期間と捉えましょう。

第１学年　　題材２「はくを かんじとろう」

♪ たん たん ｜ たん うん ‖ のリズムを うちましょう。「じゃんけんぽん」（1 時間）

●今　何をする？●

★指導用ＣＤの範唱に合わせて，じゃんけんの動きをして遊んだりリズムを打ったりする活動を楽しみます。ＣＤは，ピアノ伴奏とオーケストラ伴奏があるので，適宜変えるとよいでしょう。

★楽器を大切に扱う観点からも，手をよく洗ってからカスタネットに触れるようにしましょう。交代で行うときは，カスタネットを拭いてから友達に渡します。

☆除菌用の消毒液等を準備しておきます。

☆右のリズムカードをつくっておくと，次の学習にも活用できます。（別紙参照）

1　聴いて，動いて

◎「じゃんけんぽんをしながら　心の中で　歌おう！」

⑴　指導用ＣＤの範唱（以下，範唱）を聴いて，じゃんけんで遊ぶ様子を思い浮かべる。

⑵　自由に体を動かしながら，範唱に合わせて心の中で歌う。

- おなか，髪の毛，服などに直接触れないようにして，動作化するとよい。

⑶　たん　たん　｜たん　うん　‖ の部分で手拍子を打ったりじゃんけんの動きをしたりする。

- 上記のリズム譜を黒板に貼り，手拍子で打って ぐう　ぐう｜ぐう・‖ のリズムであることに気付くようにする。
- 他にも同じ部分があるかどうか確かめながら聴き，たん　たん　｜たん　うん　‖ の部分で，手拍子を打ったり，じゃんけんの動きをしたりする。

例）ぐう　ぐう　｜ぐう　・‖ ＝じゃんけんのグーをして先生とじゃんけんをするように上下に腕を振る。

2　聴いて，奏でて

◎「たん　たん　｜たん　うん　‖ をカスタネットで打って合わせよう！」

⑴　教科書の挿絵を参考にして，持ち方や打ち方を確認し，交代でリズムを打つ。

- 人数分のカスタネットがあれば，今回は一人ずつ自分で準備するようにする。
- カスタネットの打ち方は，教科書 p. 15 の二次元コードで児童一人一人が確認できる。
- カスタネットを持っていない子供は，楽器を持っているつもりで手拍子を打つ。
- 教師又は隣の友達と交互に打ったり，一人ずつ順に打ってリズムリレーをしたりする。

⑵　音楽に合わせて，たん　たん　｜たん　うん　‖ の部分でカスタネットや手拍子を打つ。

- 全員が持っていても，一度に演奏すると音楽が聴き取りづらくなるので，交代で演奏し，隣の友達が拍にのり丁寧な打ち方で演奏できていたかどうか聴くように促すとよい。
- 指導用ＣＤのカラピアノ・カラオケを使って，心の中で歌いながら打ったり，数名が交代で前に出て打ったりして，カスタネットの打ち方が音楽に合っているかどうか聴き合う。

●評価

技　範奏を聴いたり絵譜を見たりして，範唱や伴奏に合わせてカスタネットを演奏する技能を身に付けて演奏している。

●これからどうする？●

机や椅子のない教室で学習できる場合は，「♪おなかがすいたら」等のタッカのリズムの部分でスキップをし，「ぐうぐうぐう」等の たん　たん　｜たん　うん　‖ の部分で手拍子を打つなどし，心の中で歌う習慣を身に付けておくことが大切です。

第１学年　題材２「はくを　かんじとろう」

♪ たん　たん　｜　たん　うん　‖ のリズムで あそびましょう。

「なまえあそび」「フルーツ ランド」（１．５時間）

●今　何をする？●

★電子オルガンに内蔵されているメトロノームや様々なリズムにのって，手拍子や体の動きを通して，たん　たん　｜たん　うん　‖でリズム遊びをします。「はあい」や３文字の言葉を心の中で唱えるようにすると，リズムが打ちやすくなります。

☆「じゃんけんぽん」で学習したカスタネットを活用し，教師が拍打ちをしたり，児童が交代で打ったりすることもできます。

１　音でお話

◎「たん　たん　｜たん　うん　‖のリズムに，体を使った音でこたえよう！」

⑴　教師がカスタネットでたん　たん　｜たん　うん　‖を打ったら，心の中で「はあい」と返事をするような気持ちでたん　たん　｜たん　うん　‖と手拍子を打つ。

- 「じゃんけんぽん」のぐう　ぐう｜ぐう・｜等と同じリズムであることを思い起こす。
- はじめは，オルガンのメトロノーム機能を使い，慣れたらリズム機能を活用する。
- 教師→全員での学習が慣れてきたら，教師と交互に一人ずつ順に手拍子を打ったり，列ごとに打ったりする。終わるときは，全員で打つようにすると盛り上がる。

例）教師→児童Ａ→教師→児童Ｂ～→全員　，教師→１列目→教師→２列目～→全員

⑵　うんの部分で，手を上げたりじゃんけんの動きをしたりして，うんを感じ取るようにする。

- 教師とじゃんけん，班ごとや回数ごとに動きを変えるなどして楽しむ。

例）１班：児童Ａ（カスタネット）たん　たん　｜たん　うん　‖

→１回目：たんは手拍子，うんは両手を上げる

→２回目：たんはひざ打ち，うんは腕組み

２　音でリレー

◎「たん　たん　｜たん　うん　‖に合う果物の名前を思い浮かべて，体を使って出せる音でリレーしよう！」

⑴　「ばなな」「すいか」など３文字の名前の果物を思い浮かべ，心の中で言葉を唱えながら，手拍子でたん　たん　｜たん　うん　‖のリズムを順番に打つ。

例）全員→児童Ａたん　たん　｜たん　うん　‖　（心中で「ばなな（グー）」）→児童Ｂ→～

⑵　体を使って出せる音でたんの音やうんの動きを考え，順につなげる。

例）児童Ａたん（胸）たん（胸）｜たん（胸）うん（パー）‖→児童Ｂ→～

●評価

技　たん たん｜たん うん‖のリズムに合う言葉や体を使って出せる音を選んで，即興的に表現する技能を身に付けてリズムで呼びかけ合っている。

思・判・表　リズムや拍，呼びかけとこたえを聴き取り，それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら，音や体の動きを工夫し，音楽づくりの発想を得ている。

態　拍にのって言葉を思い浮かべながらリズムをつなげる面白さに興味・関心をもち，体を使って出せる音や休符を意識した動きを工夫して，即興的に表現する学習に楽しんで取り組もうとしている。

●これからどうする？●

声を出して学習することができるようになったら，授業の導入の際，言葉を入れて遊びましょう。

第１学年　題材２「はくを かんじとろう」
♪ うたに あわせて リズムを うちましょう。　「みんなで あそぼう」（１．５時間）

●今　何をする？●

★ たん たん ｜たん うん ‖ の短いリズムと たん たん ｜たん たん ｜たん たん ｜たん うん ‖ の長いリズムとのフレーズの違いに気付き，拍にのって表現する活動を中心に授業展開します。

☆

上記のリズムカードをつくっておくと，「かたつむり」の学習でも活用できます。（別紙参照）

１　聴いて　見つけて

◎ 「たん たん｜たん たん｜たん たん ｜たん うん‖ のリズムはどこかな？」

⑴　２本指の手拍子で拍を打ちながら指導用ＣＤの範唱を聴き，たん たん｜たんうん‖ のリズムの部分を見付ける。

- 教科書の縦書きの歌詞から“あそぼう”“うたおう”“はずむ”“きもち”が，たん たん｜たんうん‖ のリズムであることに気付くように，何度か範唱を聴くとよい。
- 「じゃんけんぽん」で使ったリズムの絵譜を活用する。

⑵“みんなで あそぼう”“てと てを ならそう”（１番）が たん たん ｜たん たん ｜たん たん｜たん うん ‖ のリズムであることに気付く。

- “みんなで あそぼう”は，途中にうんがないことに気付くように促す。
- 上記のリズムの絵譜も黒板に貼り，たん たん｜たんうん‖ との違いを見出しながら，範唱に合わせて手拍子を打つ。

例）児童Ａ：たん たん｜たんうん‖ は，短いから「あそぼう あそぼう」と２回繰り返して たん たん ｜たん たん ｜たん たん ｜たん うん ‖ と同じ長さになるんだね。

２　打って　合わせて

◎ 「たん たん｜たんうん‖ と たん たん ｜たん たん ｜たん たん ｜たん うん ‖ を打とう！」

⑴　２つのリズムの違いを生かし，拍にのってカスタネットや手拍子などで演奏する。

- ペアになり，一人は「フルーツランド」で考えた体を使って出せる音で たん たん｜たん うん‖ を２回打ち，もう一人は，それに続いて手拍子やカスタネットで たん たん ｜たん たん ｜たん たん ｜たん うん ‖ を１回打つ。２回繰り返すと「みんなで あそぼう」の歌と同じ長さをもったリズムのフレーズになる。

⑵　楽器や体を使って出せる音の音色に気を付けながら，範唱に合わせて表現する。

- カスタネットの音の出し方や扱い方を振り返りながら，音色に意識を向けるようにする。
- ⑴で演奏したペアで範唱に合わせるように演奏し，役割を交代して楽しむ。

●評価

知　歌詞の表す様子やフレーズと曲想との関わりに気付く。

知・技　音色と演奏の仕方との関わりに気付き，音色に気を付けて音を合わせてカスタネットや手拍子等を演奏する技能を身に付けて演奏している。

思・判・表　音色やリズム，フレーズを聴き取り，それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら，聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え，演奏の仕方を工夫し，どのように表現するかについて思いをもっている。

●これからどうする？●

「うたごえ」コラムの内容については，２学期の学習の中で，折にふれて指導を繰り返すようにしましょう。

第１学年　　題材３「はくに のって リズムを うとう」
♪ おんがくに あわせて リズムを うちながら ききましょう。「しろくまの ジェンカ」（２時間）

●今　何をする？●

★音楽に合わせて自由に体を動かしながら，楽しく聴くようにします。手拍子をしたりステップを踏んだりして，拍にのる感じをつかみます。

☆たん　うん｜たん　うん｜たん　たん｜たん　うん‖　のリズムカードを用意します。（別紙参照）

☆カスタネットは，「じゃんけんぽん」で使ったことを思い出して，扱い方に注意します。

1　聴いて，見て，動いて

◎「音楽に合わせて　体を動かそう！」

⑴　音楽を聴きながら，友達に触れないように自由に体を動かす。

⑵　教科書の挿絵を見て たん　うん｜たん　うん｜たん　たん｜たん　うん‖　のリズムに気付き，挿絵を指さしながら音楽を聴く。

・白熊の帽子とマフラーが音符と休符に対応し，影が拍になっていることを気付くようにする。

⑶　音楽に合わせてジェンカのステップを踏む。

・本来は肩と手をつないでステップを踏むが，今回は一人で行うようにする。

・互いに近づき過ぎないように気を付け，少人数ごとに交代しながら練習するようにする。

・全体を３つの組に分けて，あ＝１の組，い＝２の組，あ＝３の組　のようにフレーズごとに動くようにする。

2　聴いて，奏でて

◎「たん　うん｜たん　うん｜たん　たん｜たん　うん‖　をカスタネットや手拍子で打って合わせよう！」

⑴　リズムカードを掲示し，挿絵のリズムと同じであることを知り，手拍子やカスタネットで打つ。

・教師はクラベスなどを打って，拍が分かるようにする。

⑵　音楽に合わせて，カスタネットや手拍子で打ったり動いたりする。

・あは手拍子，いはカスタネットなど，まとまりごとに分担奏をする。互いに聴き合って，拍にのりながら演奏するように促すとよい。

・手拍子，カスタネット，ステップのグループに分かれ，役を交代しながら音楽に合わせて表現する。

●評価

知　リズムや拍，フレーズと曲想との関わりに気付いている。

思・判・表　リズムや拍，フレーズを聴き取り，それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら，聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え，曲や演奏のよさや面白さを見出し，曲全体を味わって聴いている。

態　リズムや拍に興味・関心をもち，体を動かしながら聴く学習に楽しんで取り組もうとしている。

●これからどうする？●

体育の授業やお楽しみ会など，体を動かす活動の時間に取り入れて楽しみましょう。歌うことができるようになったら，ぜひ，歌いながら「しろくまの ジェンカ」を踊ってください。

第１学年　　題材３「はくに のって リズムを うとう」
♪ かたつむりに よびかけるような きもちで うたいましょう。「かたつむり」（１～２時間）

●今　何をする？●

★歌詞の内容からかたつむりの様子を思い浮かべたり，歌に合ったリズム伴奏を工夫したりします。

☆電子黒板，プロジェクター等などで教科書の挿絵や既習の３つのリズムパターンを拡大して掲示できるようにすると効果的です。

☆教科書 p.23 の二次元コードを読み取り「かたつむり」を選ぶと，範唱（1 番のみ）が流れます。タブレット等が使える場合は，聴きながらリズムを工夫することができます。

１　見て，聴いて

◎「かたつむりの様子を思い浮かべよう！」

⑴　歌詞を黙読し，指導用 CD の範唱を聴いて，かたつむりがどのような様子なのか想像する。
・教科書の挿絵で「あたま」「つの」「めだま」「やり」などのかたつむりの特徴を確かめながら，どのような気分かを感じ取るように助言する。

⑵　指導用 CD の範唱を聴きながら，かたつむりになった気分で体を動かす。
・フレーズごとに動きを変えるようにし，最後のフレーズは呼びかけている感じになるように助言する。
・動くときは人に触れないように気を付けるよう促す。

２　工夫して，合わせて

◎　「歌に合ったリズムを工夫しよう！」

⑴ カスタネットで既習の３つのリズムを復習する。
・教科書 p. 23 のリズムを掲示し，オルガンのメトロノーム機能などを活用して拍を示すと，拍にのる感じをつかみやすい。
・カスタネットの取り扱いに注意するようにする。

⑵ 「かたつむり」の３つのフレーズに，それぞれのリズムを合わせてみる。
・教師がオルガンなどで旋律を示しながら，フレーズごとにリズムを変えて確かめるようにする。カスタネットの音の出し方にも気を付けるようにしたい。

⑶ ペアで，それぞれのフレーズに合ったリズムを工夫する。
・隣どうしに座り，向き合わないように気を付ける。

⑷ 指導用 CD の範唱に合わせて，心の中で歌いながら，自分たちで工夫したリズム伴奏を楽しく演奏する。

●評価

知・技　**歌詞の表す様子や気持ちと曲想の関わりに気付き，楽器の音色に気を付けて表現する技能を身に付けてリズムを打っている。**

思・判・表　**リズムや拍，フレーズを聴き取り，それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら，音の出し方やリズムの打ち方を工夫し，どのように表現するかについて思いをもっている。**

●これからどうする？●

学んだ３つのリズムは，２学期以降に歌ったり合奏したりするときに，リズム伴奏として応用することができます。また「かたつむり」は歌い継がれてきた季節の愛唱歌です。声を出せるようになったらのびのびと歌うために，必ず心の中で歌いながら活動しておくことが大切です。

第１学年　　題材３「はくに のって リズムを うとう」
♪ たんと たたの ちがいに きづいて リズムを うちましょう。「ぶんぶんぶん」（１～２時間）

●今　何をする？●

★既習の たん　たん　｜たん　うん‖ と新しく出てきた たた　たた　｜たん　うん‖ のリズムの違いの面白さを，手や膝を打ったり楽器を使ったりして学習します。

★楽器の扱い方を思い出し，カスタネットと同様にタンブリンも気を付けて触れるようにしましょう。

☆除菌用の消毒液等を準備しておきます。

☆ たた　たた　｜たん　うん‖ のリズムカードを用意しておきましょう。

☆授業支援ＤＶＤを活用し，タンブリンの演奏の仕方を参考にすると分かりやすいです。

１　聴いて，感じて

◎「リズムの違いが分かるかな？」

⑴　教師が手拍子で打つ たん　たん　｜たん　うん‖ と たた　たた　｜たん　うん‖ のリズムの違いを聴き取って，模倣（まねっこ）をする。

⑵　歌詞を黙読しながら指導用ＣＤの範唱を聴き，　　の部分が２つのリズムと同じであることに気付いて，手拍子で打ったり膝打ちをしたりする。

・教科書 p. 25 の絵譜を参考にして， たた は たん を分割したリズムであること理解するようにする。

・ たん　たん　｜たん　うん‖ を打つ児童と たた　たた　｜たん　うん‖ を打つ児童で交互に打つ， たん　たん　｜たん　うん‖ は手拍子で， たた　たた　｜たん　うん‖ は膝で打つなど，いろいろな打ち方を工夫すると飽きずに身に付けることができる。

２　聴いて，奏でて

◎「 たん　たん　｜たん　うん‖　たた　たた　｜たん　うん‖ をタンブリンで打とう」

⑴ 教科書の挿絵を参考にタンブリンの持ち方や打ち方を知り，２つのリズムを打つ。

・よい音を出すように気を付けて，２つのリズムをペアで分担したり，一人で打ったりする。

⑵ 教師のオルガンなどの範奏に合わせて，　　の部分をタンブリンで演奏する。

・「たたたた」の部分は急がないように助言する。

・聴くグループと音を出すグループに分かれて，互いに聴き合うようにする。

⑶　指導用ＣＤの範唱に合わせ，心の中で歌いながら，曲想を感じて楽しく表現する。

●評価

知・技　**リズムの違いと曲想との関わりに気付いて，範唱や範奏を聴いたり絵譜を見たりして表現する技能を身に付けて演奏している。**

技　**範奏を聴いたり絵譜を見たりして，歌に合わせながら，音色に気を付けてタンブリンを演奏する技能を身に付けて演奏している。**

思・判・表　**楽器の音色，リズムやフレーズの違い，拍を聴き取り，それらの働きが生み出すよさや面白さ感じ取りながら，演奏の仕方を考え，どのように表現するかについて思いをもっている。**

態　**リズムやフレーズの違いに興味･関心をもち，表現する学習に楽しんで取り組もうとしている。**

●これからどうする？●

「たん」と「たた」は，これからの学習にたくさん出てきます。いろいろな歌や合奏で，意識して歌ったり演奏したりして，音符に対する興味・関心を高めましょう。

第１学年　　題材３「はくに のって リズムを うとう」
♪ たんと たたを つかって ことばで リズムを つくりましょう。「ことばでリズム」(1～2 時間)

●今　何をする？●

★あ たん　たん　｜たん　うん　‖と い たた　たた　｜たん　うん‖　の二つのリズムに合う言葉を選び，反復や呼びかけとこたえを用いて音楽づくりをします。

☆３文字と５文字の食べ物のカード（教科書 p. 26 を参考に）を掲示できるようにします。

☆教師は，カスタネットやクラベスなどを使って拍を示すようにします。また，拍を感じるには，電子オルガンに内蔵されているメトロノーム機能や様々なリズムを使うこともできます。

１　聴いて，試して

◎「リズムをつなげよう！」

⑴　教科書の挿絵や掲示された食べ物カードの言葉から，教師があ（３文字）とい（５文字）のリズムに合う言葉を選んで手拍子を打ち，児童は心の中で唱えながら模倣する。

⑵　あといに合う言葉を選び，教師の呼びかけに心の中で唱えながら，選んだリズムを手拍子で打ってこたえる。

・教師はカスタネットやクラベスなどで拍打ちをする。
（オルガンのメトロノーム機能を活用してもよい）

⑶　ペアで即興的にリズムをつなげる。

・ペアは隣どうしに座るようにし，向き合わないように気を付ける。

・同じリズムを繰り返したり（模倣），違うリズム（会話）でこたえたりする。
例）〈模倣〉あ　→　あ　，い　→　い　〈会話〉あ　→　い　，い　→　あ

２　工夫して，表現して

◎「リズムに合った言葉を思い浮かべて，体を使って出せる音でつくろう！」

⑴　２つのリズムに合った言葉を思い浮かべながら，反復や呼びかけとこたえを用いて，いろいろなリズムの組合せを工夫し，手拍子で打つ。

例）〈反復〉ばなな(うん)｜すいか(うん)‖　おむらいす（うん）｜さつまいも（うん）‖
〈呼びかけとこたえ〉えびふらい(うん)｜とまと(うん)‖　たまご(うん)｜めだまやき(うん)‖

⑵　「フルーツランド」の学習を思い出し，自分で考えたリズムの組合せを，体を使って出せる音で表す。例）たたたた(膝)たん(手)うん(グー)｜たん(肩)たん(肩)たん(肩)うん(グー)｜

⑶　自分のつくったリズムを，友達とつなげて楽しむ。

・ペアでつなげたり，教師の示す拍にのって，全員でつなげたりすることもできる。

●評価

知・技　二つのリズムに合う言葉を使い，そのつなげ方の特徴に気付き，即興的にリズムをつなげたり反復や呼びかけとこたえを用いて簡単な音楽をつくったりする技能を身に付けている。

思・判・表①　二つのリズムの違いを生かし，即興的にリズムの組合せを工夫し，音楽づくりの発想を得ている。

思・判・表②　リズムや拍，反復，呼びかけとこたえを聴き取り，それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら，聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え，リズムのつなげ方を工夫し，どのように音を音楽にしていくかについて思いをもっている。

態　リズムのつなげ方の違いに興味・関心をもち，リズムの組み合わせ方を工夫したり友達とつなげて音楽をつくったりする学習に楽しんで取り組もうとしている。

●これからどうする？●

声を出せるようになったら，リズムの復習として振り返るとよいでしょう。また，身の回りの言葉（例：ぼうし，らんどせる　等）から選んで，発展的につくることもできます。

第１学年
♪ うみの ようすを おもいうかべながら うたいましょう。「**うみ**」（１時間）

●今　何をする？●

★歌詞の表す情景や気持ちに思いを寄せながら，３拍子の拍のまとまりやリズムの反復等が生み出す曲想を味わって表現することを中心に学習します。

☆教科書の挿絵を拡大したり，海の写真や動画を用意したりしておくと，情景が容易に想像できます。児童の経験も大切にしたいものです。

☆教科書 p23 二次元コードを読み取り，「うみ」を選ぶと曲が流れます。タブレット等がある学校では，それを使って，各自が３拍子の手遊びを工夫する活動を行うことができます。

１　見て，聴いて

◎「海って　どんな感じ？」

⑴　教科書の挿絵や写真を見たり，絵本を読んだりして，海の情景を思い浮かべる。

・「うみの いいもの たからもの」(ちいさな かがくのとも　大崎清夏 作　山口マオ 絵 福音館書店)「うみ　ざざざ」(ひがし なおこ 作　きうち たつろう 絵　くもん出版)等の読み聞かせをしたり，児童の経験を引き出したりすると効果的である。

⑵　指導用 CD の範唱を聴き，海についてのイメージを深める。

２　聴いて，動いて

◎ 「歌を聴きながら，３拍子の拍のまとまりやリズムの反復を感じ取ろう！」

⑴ 指導用 CD の範唱に合わせて，３拍子のまとまりを感じながら体を動かす。

・ゆったりした旋律に合った動きになるように促す。教師が音楽に合わせて３拍子の拍打ちをするようにすると，自然に３拍子の感じをつかむことができる。

⑵ 範唱に合わせて，いろいろな３拍子の拍打ちを工夫する。

例）１（膝）２（手）３（手）～，　　１（肩）２（膝）３（膝）　等

・旋律の感じに合った柔らかい拍打ちをするように助言する。

⑶ 旋律のリズム たん たん たん｜たた たん たん｜たた たん たん｜たーあー うん‖を手拍子で打つ。

・このリズムが２回繰り返されている曲であることに気付き，心の中で歌いながらリズム打ちをするようにしたい。

⑷ ペアで拍打ちと旋律のリズム打ちに分かれ，範唱に合わせて表現をする。

・歌詞の情景を思い浮かべながら，互いに合わせるようにする。

●評価

知　**歌詞の表す情景と，旋律，リズムや拍と曲想との関わりに気付いている。**

思・判・表　**歌詞の表す情景を想像したり，３拍子やフレーズを聴き取ったり，それらの働きが生み出すさや面白さを感じ取りながら，表現の仕方を工夫し，どのように表すかについて思いをもっている。**

態　**歌詞の表す情景を想像したり表現を工夫したりして，思いをもって表現する学習に楽しんで取り組もうとしている。**

●これからどうする？●

愛唱歌として，学級の今月の歌などで取り上げ，折にふれて歌えるようにしましょう。

第１学年　　題材４「みの まわりの おとに みみを すまそう」
♪ みつけた おとで よびかけあいましょう。「おとを さがして あそぼう」（１～２時間）

●今　何をする？●

★思うように声を出すことができない今こそ，普段は気が付かない身の回りの音に耳を傾けてみましょう。学校で聞こえる音に耳を澄まして，探し出した音で音遊びをします。

☆授業支援ＤＶＤ（前半部分のみ使用）を活用すると，どんな活動をするのかわかり易く知らせることができ，また，学習の雰囲気をつくることもできます。教科書 p. 30 の挿絵を拡大掲示するなども効果的です。

１　耳すまし

◎「何が聴こえるかな？」

⑴　教師が鳴らすトライアングルの音を聴き，どんな音に聞こえたか発言する。

・トライアングルの響きが消えるまで，しっかり聴くようにする。

・挙手は無言でするようにし，発言は大きな声にならないように気を付ける。この学習では音を大切にすることも身に付けたいので，心掛けるようにしたい。

⑵　周りの音に耳を澄まして聞こえる音を聴き取り，どんな音が聞こえたか発言する。

２　いい音見つけ

◎　「音を探して遊ぼう」

⑴ 教室の自分の身の回りで，よい音だなと思った音を見付ける。

例）えんぴつ，紙，プラスチックの物　等

・探すときは耳障りな音や不快な音を出さないよう，丁寧に行うように気を付ける。

⑵　見付けた音の素材から，いろいろな音の出し方を試し，様々な音色を探し出す。

例）軽くたたく，こする，指ではじく，振る　等

⑶　友達とペアで紹介し合い，似ている音や違う音の面白さに気付くようにする。

⑷　呼びかけとこたえを用いて，つなげ方を考えながら，互いの音を即興的につなげて楽しむ。

例）呼びかけに対して，

〈まねっこ〉似ている素材，同じ音の出し方，同じ音の長さでこたえる

〈会　　話〉違う音，違う音の出し方，音の長さを変えてこたえる

●評価

知　学校生活の中で聞こえる様々な音の特徴に気付いている。

技　見付けた音のつなげ方の特徴に気付き，呼びかけとこたえを用いて即興的に表現する技能を身に付けている。

思・判・表　聞こえた音の音色を聴き取り，その音のよさを感じ取りながら，それらの組合せが生み出す面白さを考え，呼びかけとこたえの仕方を工夫し，音楽づくりの発想を得ている。

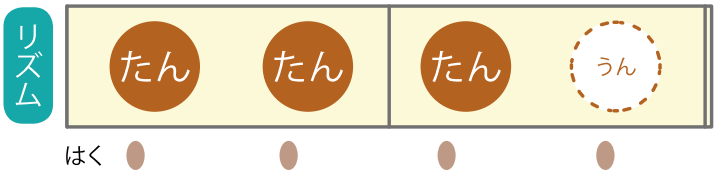
態　学校生活の中の音から，身の回りの様々な音への興味・関心を広げながら，聞こえる音を聴き取り，見付けた音を友達に伝えて，音遊びを楽しもうとしている。

●これからどうする？●

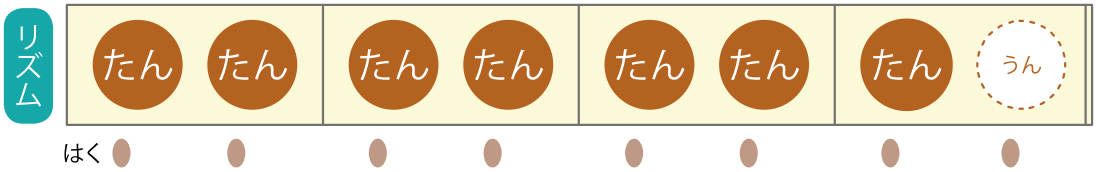
授業の合間などで耳を澄ませる時間を設け，聞く習慣を身に付けましょう。声を出せるようになったら，いろいろな声を使って楽しめます。

〔別紙 リズムカード〕

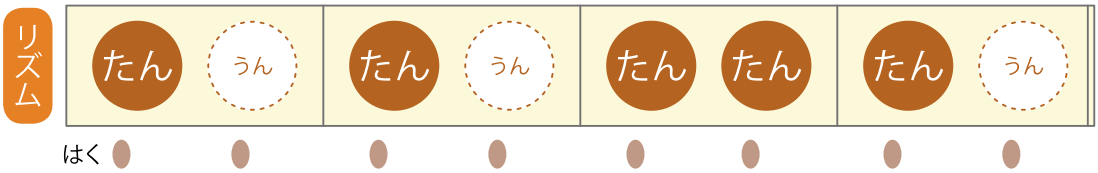
●題材２「じゃんけんぽん」



●題材２「みんなで あそぼう」



●題材３「しろくまの ジェンカ」



小学校音楽科における授業再開後の指導事例集

教育芸術社　第一編集部

学校の授業再開後に音楽の授業を行う際、歌唱や一部の器楽の活動等が制限される状況が予測されるため、先にその対応の方法について例示いたしましたが、このたび改めて、各学年の教科書の題材及びそれに含まれる教材の指導において、特段の配慮を必要とするものについて、具体的な指導事例を作成いたしました。

今後の指導計画作成並びにご指導にあたって、お役立ていただければ幸いです。

第２学年　　題材１「音楽で みんなと つながろう」
♪ みんなで いっしょに あかるい こえで うたいましょう。「メッセージ」（１時間）

●今　何をする？●

★いろいろな国のあいさつの言葉に興味・関心をもち，あいさつが人と人とのコミュニケーションに欠かせないことに気付きます。その上で，いろいろなあいさつの仕方を手話を含む体の動きで表しながら，歌の組とあいさつの組に分かれ，呼びかけとこたえを楽しみます。

☆教科書にある日本語のあいさつの手話を拡大して示したり，日本のお辞儀や会釈，手を振るなど，友達の体に触れないあいさつの動きを提示したりして，歌の中に取り入れます。

１　聴いて　動いて

◎「どんなあいさつできるかな？」

⑴　指導用ＣＤの範唱（以下，範唱）を聴いて様々な国のあいさつの言葉を知り，歌を楽しむ。
- 教科書の挿絵を見ながらどこの国のあいさつかを知り，範唱を聴く。
- 範唱を聴きながら，マスクをかけたまま，合いの手にあいさつの言葉を心の中で（状況によっては小さめの声で）言う。

⑵　範唱を聴きながら，旋律のリズムの反復に気付き，手拍子で旋律のリズムを打つ。
- １段目と２段目，３段目と４段目の旋律のリズムがそれぞれ同じであることに気付き，心の中で歌いながら手拍子で打つ。
- 手拍子を打ったあと手を広げるなどして音の長さを表したり，３，４段目のシンコペーションのリズムを強く打って強弱の変化をつけたりして，歌うように表現する。

２　動きで呼びかけ合い

◎　「歌とあいさつの呼びかけ合いを体の動きで表そう！」

⑴　２つの組に分かれて，心の中で歌いながら呼びかけとこたえを楽しむ。
- 教科書の挿絵を参考に「おはよう」「ありがとう」「さようなら」の手話を覚えて，範唱を聴きながらあいさつの部分で手話を入れる。
- 「歌チーム」＝手拍子と，「あいさつチーム」＝手話に分かれて，呼びかけ合いを意識しながら範唱に合わせて表現する。　※３，４段目は，一緒に手拍子を打つ。

⑵　歌やあいさつに合う体の動きを工夫し，２つの組で呼びかけ合う。

例）歌：１，２段目＝拍に合わせて両腕を前後に振り，長い音で両手を前に広げる。
　　３，４段目＝１・３拍でサイドステップ踏み，２・４拍で手拍子を打つ。
　　あいさつ：１番＝おはよう等＝お辞儀を１回，　２番：ありがとう等＝ピースサイン
　　３番＝さようなら等＝手話　　※３，４段目は，「歌チーム」と同じ動き

●評価

知　**歌詞の表す気持ちと曲想，旋律の特徴や拍と曲想との関わりに気付いている。**

思・判・表　**旋律のリズムや音の動き，呼びかけとこたえを聴き取り，それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取り，拍にのって歌うように体の動きを工夫し，どのように表現するかについて思いや意図をもっている。**

態　**自分や友達の表現の仕方に関心をもち，歌に合わせて体を動かす学習に楽しく取り組もうとしている。**

●これからどうする？●

「あいさつは魔法の力」（東京都のあいさつソング）と言われるぐらい，人と人をつなげます。なかなか会えなかった友達と，笑顔で表現できるように本教材を日常的に楽しみましょう。

第２学年　　題材１「音楽で みんなと つながろう」
♪ ともだちと せかいの あそびうたを 楽しみましょう。
「小犬の ビンゴ」「ロンドンばし」（１時間）

●今　何をする？●

★　児童に人気のある世界の遊びうたです。音楽を聴いて歌を覚えることを中心に，拍にのってゲームをしたり体を動かしたりして遊びうたを楽しみます。

☆　B, I, N, G, O のカードを用意します。

１　聴いて　動いて

◎「曲の雰囲気を感じ取って聴こう！」

⑴　「小犬の ビンゴ」と「ロンドンばし」の鑑賞用ＣＤの日本語版を聴き，歌を覚えて遊ぶ。

・　幼稚園や保育園等で聴いたり歌ったりしている児童が多いと思われるので，音楽に合わせて，自由に体を動かしたり心の中で歌ったりしながら聴く。

・　鑑賞用ＣＤの日本語版を聴きながら，足踏みをしたり「BINGO」のリズム タン タン｜タタタン‖ を打ったりしながら聴く。

⑵　鑑賞用ＣＤの英語版も聴き，英語の遊びうたのよさや面白さを味わう。

・　英語版でも，日本語版と同様に体を動かしながら聴く。

２　聴いて　遊んで

◎　「ゲームをしながら音楽を聴こう！」

⑴　「小犬のビンゴ」は，「BINGO」一文字一文字に体の動きを入れる遊びをしながら聴く。

・　「B」から順に手拍子を加えたり，「O」から逆に手拍子を入れたりして楽しむ。

・　慣れてきたら，教師が示すカードの文字の部分だけ手拍子を打ったり，代表児童が示す文字以外の部分で膝を打ったりするなど，様々なバージョンで楽しむ。

例）①教師が示す文字の部分だけ手拍子を打つ。　教師：B，G → 児童：手 I N 手 O

②代表児童が示す文字の部分以外で膝を打つ。代児：B，G → 全児：B 膝 膝 G 膝

⑵　「ロンドンばし」は，２列で橋を作り，その間を音楽に合わせて二人ずつ歩き，役割を交代して遊ぶ。

・　２列の橋は，背中合わせになり，左右前後 1.5m の距離を置いて橋をつくる。橋の上の二人は，1.5m 離れて歩く。

例）橋 ①　②　③　④　⑤　⑥
　　橋の上●　　●　→
　　橋 ①　②　③　④　５　⑥

※１○の児童は，その場で拍に合わせて手拍子
　●の児童は，拍に合わせて歩き，「さあ どうしましょう」で⑥の隣に距離をとって並ぶ。
※２回目は，①の二人が●になり，橋の上を歩く。
　これを繰り返す。

●評価

思・判・表　拍やリズムを聴き取り，それらの働きが生み出すそれらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取り，体を動かしながら曲や演奏の楽しさを見いだし，曲全体を味わって聴いている。

態　友達と一緒に体を動かしながら音楽を聴く活動を楽しみ，世界の遊びうたに親しもうとしている。

●これからどうする？●

歌ってもよい場合は，普段の学習のアイスブレイクにも活用し，歌いながら楽しみましょう。

第２学年　　題材１「音楽で みんなと つながろう」
♪ かくれんぼで あそんで いる ようすを おもいうかべながら うたいましょう。
「かくれんぼ」（１時間）

●今　何をする？●

★本教材は，わらべうたの音階を使ってつくられた歌唱共通教材で，児童にはなじみの歌です。ここでは，「もういいかい」「まだだよ」「もういいよ」の旋律やリズムを楽器で強弱等を工夫して表し，呼びかけとこたえのよさや面白さを味わいます。

☆カスタネットやタンブリン，鉄琴や木琴などの打楽器を用意します。授業の前にも手をよく洗い，交代で使うときは，除菌できるように準備をしておきます。

１　聴いて　遊んで

◎「かくれんぼ遊び風に歌を楽しもう！」

⑴　手拍子で拍を小さく打ちながら指導用ＣＤの範唱（以下，範唱）を聴いて，曲想をつかむ。

・ 拍を打つチームと旋律のリズムを打つチームに分かれて，手拍子を打つ。
・ 旋律のリズムを打つチームを「もういいかい」と「まあだだよ」「もういいよ」の２組に分け，呼びかけとこたえを意識して手拍子を打つ。

⑵　範唱を聴きながら，スキップやじゃんけんをして遊ぶ。

例)「かくれんぼするもの よっといで」＝スキップ（できない児童は，手拍子等でもよい）
「じゃんけんぽいよ　あいこでしょ」＝拍にのってじゃんけん(教師と児童,代表児童と他の児童)
「もういいかい」　　＝教師や代表児童が「回りを見渡す」動き
「まあ だ だよ」　　＝教師や代表児童に負けとあいこの児童が「こたえる」動き
「もう いい よ」　　＝教師や代表児童に勝った児童が「こたえる」動き

２　楽器で呼びかけ合い

◎　「楽器でかくれんぼ遊びをしよう！」

⑴心の中で歌いながら，どのような呼びかけ合いになっているかを考える。

・　「メッセージ」の合いの手とは異なることに気付き，手拍子で旋律のリズムを打ち，「もういいかい」「まあだだよ」等の旋律の音の動きやリズムの特徴を感じ取る。

児童Ａ:「もういいかい」は，タン タン｜タン ウン‖ のリズムで，「まあ だだよ」は？
児童Ｂ：使われている音は同じかな？「もういいよ」は，「もういいかい」と同じだね！

⑵「もういいかい」や「まあだだよ」等を表す楽器を決めて，音の出し方を工夫して表現する。

例)「かくれんぼ～」「じゃんけんぽいよ～」＝全員で旋律のリズムをやや強く手拍子で打つ。
「もういいかい」＝代表児童：オルガン　　＝ f　ソ　シ　｜ラ　・　‖
「まあ だだ よ」＝代表児童：カスタネット＝ mf　タン ﾀｯｶ｜タン ウン‖ (2 回目は mp)
「もう いい よ」＝代表児童：鉄琴　　＝ p　ソ　シ　｜ラ　・　‖

●評価

知：歌詞の表す様子や呼びかけとこたえ，強弱や拍と曲想との関わりについて気付いている。
思・判・表　歌詞の表す様子や呼びかけとこたえ，強弱や拍と曲想との関わりを考え，音色や強弱を工夫し，どのように表現するかについて思いや意図をもっている。

●これからどうする？●

スキップや拍打ちなどを通してリズムを感じ取ったり，呼びかけとこたえなどの音楽の仕組みを学んだりすることは，今後の学習の基盤となる内容です。その力を身に付け，外でのびのびと遊べるようになったら，かくれんぼを楽しみながら声を出して歌ってほしいものです。

第２学年　　題材２「はくの まとまりを かんじとろう」
♪ ２びょうしを かんじながら うたいましょう。　　「はしの上で」（１時間）

●今　何をする？●

★教師の２拍のリズム打ちをまねしながら，２拍子を感じ取ります。
★指導用ＣＤを聴きながら音楽に合わせて拍を打ったり，２拍子を感じて手や膝を打ったりします。
☆音楽授業支援ＤＶＤ（以下，支援ＤＶＤ）を見てまねをするようにすると，手遊びの仕方がよく分かります。その際，ペアで手を合わせるところは省きます。
☆カスタネット，タンブリン，鈴等を使用する場合は，除菌用の消毒綿を用意します。

１　聴いて，感じて

◎「心の中で歌いながら　２拍子を感じ取ろう」

⑴　指導用ＣＤの範唱（以下，範唱）を聴きながら，軽快で楽しい曲想を感じ取る。
・範唱を聴きながら，体を左右に揺らしたり足踏みをしたりして拍を感じるようにする。
・旋律のリズムを手拍子で打ち，タッカのリズムがうきうきする曲想と関わっていることに気付くようにする。

⑵　範唱に合わせて手・足拍子を行い，２拍子の拍のまとまりを感じ取る。
・支援ＤＶＤを参考にし，心の中で１，２と唱えながら拍打ちをする。

２　聴いて，合わせて

◎　「２拍子の拍打ちを回そう！」

⑴　拍にのって，「２びょうしでリズムあそび」を楽しむ。
・支援ＤＶＤのようにリズムのリレーが止まらないようにし，４人ぐらいで行う。
・打つ場所を変えたり，リレーする人数を増やしたりすると緊張感があって楽しめる。
・次の友達に渡すように，次の人に手を向けながら手・足拍子をするとよい。
この場合は，友達との距離を保つようにする。

⑵　カスタネット，タンブリン，鈴などを使ってリズム遊びをしたり，範唱に合わせたりする。
・１拍目をタンブリン，２拍目を鈴，のように音色を変えると，２拍子を感じ取りやすい。
・ペアで２拍を１拍ずつ分担し，範唱に合わせて演奏する。
例）児童Ａ：タンブリンで１拍目，児童Ｂ：鈴で２拍目

●評価

思　**拍やリズムを聴き取り，それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら，拍にのってリズム打ちを工夫し，どのように表現するかについて思いをもっている。**

態　**拍のまとまりに興味・関心をもち，友達と交流しながら拍を打つ学習に楽しんで取り組もうとしている。**

●これからどうする？●

友達とぶつからないように動ける場所がある場合は，ステップを考えるなど，体全体で２拍子を感じ取ることも大切です。２拍子は，最も基本的な拍子なので，リズム遊び等を通してしっかり身に付けておくことが，今後の学習を支えます。

第２学年　　題材２「はくの まとまりを かんじとろう」
♪ ３びょうしを かんじながら うたいましょう。　　「たぬきの たいこ」（１～２時間）

●今　何をする？●

★「はしの上で」と聴き比べをしながら，２拍子と３拍子との違いを感じ取って，３拍子の特徴ある拍のまとまりに気付くようにします。このとき，自由に体を動かしたり手を打ったりして，より３拍子の拍のまとまりを感じ取りやすくします。

☆音楽授業支援ＤＶＤ（以下，支援ＤＶＤ）を参考にしながら３拍子を打つ学習は効果的ですが，ここでは，一人で打ったり，手を合わせずに手遊びしたりするようにします。

１　聴いて，感じて

◎「３拍子ってどんな感じ？」

⑴　指導用ＣＤの範唱（以下，範唱）を聴き，曲想をつかむ。
- 範唱に合わせて体を動かしたり手拍子をしたり，「はしの上で」の範唱と聴き比べたりして，２拍子と３拍子との違いを感じ取る。
- ２曲を比べながら聴いて，気付いたことや感じたことを発表する。
- 友達の気付いたことを全員で共有するために，再度聴く。

⑵　範唱に合わせて手・足拍子をし，３拍子の拍のまとまりを感じ取る。
- 支援ＤＶＤを参考にし，心の中で１，２，３と唱えながら拍打ちをする。

２　聴いて，合わせて

◎「３拍子のリズムを打とう」

⑴　支援ＤＶＤを参考に，一人で３拍子のリズムの打ち方を考え，範唱に合わせる。
- 音色に気を付けながら，１拍目～３拍目で，体のどこを打つか考える。
  例）１拍目＝膝，２拍目＝手拍子，３拍目＝頭　など
- 範唱に合わせて，自分で考えた３拍子のリズムの打ち方で演奏する。

⑵　拍にのって，３拍子のリズムをリレーする。
- ２拍子のときと同じように，次の友達にリズムを渡すような気持ちでリレーする。
  友達との距離を保つように気を付ける。

⑶　範唱に合わせて，音色に気を付けながら３拍子のリズムをリレーする。
- 一人１小節ずつリズムを打ち，拍にのってつなげられるようにする。

例）　♪　たぬきの　　ぼうやが　　やまで　タンタタタン～
　　児童Ａ　　児童Ｂ　　児童Ｃ　　児童Ｄ　～
　　＜足手手＞＜膝手頭＞＜手膝膝＞＜膝肩肩＞～

●評価

技　音色に気を付けて，音を合わせてリズムを打つ技能を身に付けている。

思・判・表　拍のまとまりやリズムを聴き取り，２拍子と３拍子の違いが生み出すよさや面白さを感じ取りながら，３拍子を生かした表現を工夫し，どのように表現するかについて思いをもっている。

●これからどうする？●

「はしの　上で」の２拍子，「たぬきの　たいこ」の３拍子の拍打ちは，授業の始めの２～３分に常時活動として行うと，拍のまとまりがつかめ，今後の４拍子の学習にもつながっていきます。

第２学年　　題材３「ドレミで あそぼう」
♪ 音の たかさに 気を つけながら，うたったり きいたり しましょう。
「ドレミの うた」（２時間）

●今　何をする？●

★鑑賞用ＣＤの「ドレミの うた」を聴きながら，心の中で歌います。よく知られている曲でもあり，思わず声を出して歌いたくなってしまいますが，心の中で歌うという活動も，音楽をじっくり味わったり，曲の感じをつかんだりするには大切な学習といえます。

☆「ドレミ風船」を活用すると，音の高さを視覚的にもつかむことができます。
　トーンチャイムやベル等，一人一音の楽器を使うときには除菌用の消毒液等を準備します。

１　聴いて，感じて

◎「みんなが知っている曲をじっくりと聴こう！」

⑴　鑑賞用ＣＤを聴いて，ドレミを覚える歌であることを知り，曲想をつかむ。
・どんな感じの音楽なのか，改めて考えながら聴くようにし，気付いたことや感じたことを伝える。
※教師が「元気な感じかな？」と発問し，それに対して挙手をするなど，発言の仕方に留意する。
・発言内容を確かめながら再度聴く。

⑵　一人一音で演奏できるトーンチャイム，またはベル等を使って，階名に親しみながら聴く。
・音楽に合わせて，歌詞が階名の部分で音を入れる。
例）歌　「ド　は　ドーナツの　ド」～
　楽器　ド　　ド　　ド
・自分の音に集中しながら，次の音へのつながりを意識するよう促す。

※ド～レの一人一音の楽器を用意し，交代で演奏する。こうした楽器がない場合は，鉄琴等で，一人一音ずつ担当して演奏することもできる。

２　聴いて，動いて

◎「ドレミを体で表そう」

⑴　歌詞が階名の部分で「ドレミ風船」を指しながら，音の上がり下がりを感じ取る。
・教師は，指導書の付録の「ドレミ風船」を黒板に貼付し，児童と一緒に指し示す。
・代表児童が「ドレミ風船」を指し示し，他の児童は，それに合わせて手を動かす。

⑵　歌詞が「ドレミ～」の部分は，下のような体の動きで音の高さを表し，音楽を聴く。

例）ド→かかとをさわる　レ→ひざをさわる　ミ→おなかをさわる　ファ→胸で手を交差
　ソ→両手を水平に広げる　ラ→肩をさわる　シ→頭をさわる　ド→両手を上げる
※体を動かす際には友達とぶつからないように注意する。

・歌詞が階名の部分で２パートに分かれるところは，どちらも体の動きを入れて，二つのグループに分かれて合わせると，２パートの旋律の音の動きの違いが可視化できる。

●評価

知　**歌詞の表す情景や気持ち，歌声の響きや旋律の音の動きなどと曲想との関わりに気付いている。**

思・判・表　**歌詞の表す気持ち，歌声の響き，旋律の音の動きを聴き取り，それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら，曲や演奏の楽しさを見いだし，体を動かすなどして味わって聴いている。**

態　**歌詞の表す情景や気持ち，歌声の響きや旋律の音の動きなどと曲想との関わりに興味・関心をもち，音の高さに気を付けて聴く学習に楽しんで取り組もうとしている。**

●これからどうする？●

ここで示した音の高さを感じ取る活動を常時活動として行うと，音の高さの感覚が養われます。

第２学年　　題材３「ドレミで　あそぼう」
♪　音の たかさに 気を つけながら，うたったり ふいたり しましょう。
「かっこう」　（１～２時間）

●今　何をする？●

★指導用ＣＤの歌詞唱，階名唱を聴きながら，曲想を感じ取ったり，旋律を階名で覚えたりします。

★３拍子の曲であることに気付き,「たぬきの たいこ」の学習を思い出してリズム打ちをすると，３拍子の拍のまとまりを感じた演奏につながります。

☆音の高さを感じ取るために,「ドレミ風船」を掲示します。

☆演奏の工夫をするために,「ふきかたの くふう」を参考にすると効果的です。

１　聴いて，感じて

◎「どんな曲かな？」

⑴　指導用ＣＤの範唱（以下，範唱）を聴いて「かっこう」の歌であることを知る。
・“かっこう”は鳴き声のようだと気付くことが，演奏の工夫につながる。
・３拍子であることに気付いて，範唱に合わせてリズム打ちをする。

⑵　指導用ＣＤの階名唱を聴きながら，心の中で階名で歌う。
・階名が覚えられるよう，何度か聴く。その際，p. 22 のドレミ風船や教科書の絵譜を指さしするとよい。

２　演奏の仕方を考えて

◎「『かっこう』の鳴き声から演奏の仕方のヒントをもらおう！」

⑴　指導用ＣＤの階名唱や教師の演奏に合わせ，指で演奏する（以下,「指演奏」とする)。
・教師に見えるように手を挙げて指番号通りに指を動かす。
・この曲は手の位置を動かさず演奏できるので，指使いを意識して「指演奏」する。
・１段ずつゆっくり練習しながら，１段目と３段目のリズムが違うことに気付く。
・指使いに気を付けて，鍵盤ハーモニカの上で音を出さずに「指演奏」する。

⑵　旋律の音の動きや音色に気を付けて，木琴やキーボードなどで演奏する。
・友達が演奏しているときには，他の児童は「指演奏」したり，友達の演奏を聴いたりする。
・演奏したい楽器を選び,「ふきかたのくふう」を参考にして，どのように演奏したらよいかについて考えたり，友達の意見を聞いたりしながら演奏の仕方を工夫する。

●評価

技　範奏を聴いたり絵譜を見たりして，旋律の音の動きや音色に気を付けて楽器で演奏する技能を身に付けて演奏している。

思・判・表　音色や旋律の特徴を聴き取り，それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら，歌詞から演奏の仕方を工夫し，どのように表現するかについて思いをもっている。

●これからどうする？●

夏休みに，鍵盤ハーモニカの練習や，階名で歌いながら「ドレミ風船」を指さしたり，ドレミを表す体の動きを工夫したりすることを課題として出すことも考えられます。

第２学年　　題材３「ドレミで あそぼう」
♪ 音の たかさに 気を つけながら，うたや がっきで おいかけっこを しましょう。
「かえるの がっしょう」（２時間）

●今　何をする？●

★指導用 CD に合わせて絵譜を指さしたり，歌のリズムを手拍子で打ったりします。
★指番号通りに指を動かしたり，鍵盤の上で音を出さずに指だけを動かしたりします。
☆大きな鍵盤の絵を掲示し，演奏する場所を示してあげると効果的です。
☆指番号を意識する指導の際には，教科書の絵譜の指番号を大きく掲示するといいでしょう。
☆木琴，キーボード等を使う場合は，除菌用の消毒液等を準備します。

１　聴いて，動いて

◎「音の高さはどう変わっているのかな？」

⑴　指導用ＣＤの階名唱を聴きながら，心の中で歌う。
・「ドレミ風船」を指さしたり，「ドレミのうた」で行った体の動きで表したりし，音の高さを感じ取ることができるようにする。

⑵　体の動きで階名を表したりしながら，追いかけっこをする。
・体の動きを伴うことで，視覚的に追いかけていることを感じ取ることができるようにする。
・はじめは学級全員と教師，数名の児童と教師でやってみて，慣れてきたら，２グループに分かれて「動きで追いかけっこ」をする。追いかける順番は交代で行う。
※ＣＤの速度を変えられる場合は，少し遅くするとよい。

２　楽器に挑戦！

◎「鍵盤ハーモニカの『指演奏』から，いろいろな楽器へ！」

⑴　指導用ＣＤまたは，教師の演奏に合わせて指番号通りに指で演奏する（「指演奏」）。
・手を挙げて，指番号通りに指を動かす。その時に，ドレミファ｜ミレド・の「・」の時にミの鍵盤の位置に「１の指（親指）」を移動する（お引越し）ことを意識するよう促す。

⑵　鍵盤の上で，心の中で階名唱をしながら，手のポジションに気を付け，指で演奏する。

⑶　慣れてきたら，数名ずつ，木琴やキーボードで演奏する。
・音色の違う楽器で追いかけっこをし，楽器の音からも一つの旋律がずれて重なる面白さを感じ取るようにする。

●評価

知・技　旋律やフレーズ，音楽の縦と横との関係と曲想との関わりに気付き，互いの音を聴いて，表現する技能を身に付けて演奏している。

思・判・表　旋律やフレーズ，音楽の縦と横の関係を聴き取り，それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら，音の高さを表す体の動きを工夫し，どのように表現するかについて思いや意図をもっている。

態　音の高さを感じ取り，体の動きで表現したり，指を動かして，鍵盤の練習をしたりする学習に楽しんで取り組もうとしている。

●これからどうする？●

鍵盤楽器上の手のポジション移動は，次の「ぷっかりくじら」や２学期の「山のポルカ」等，今後の学習にも応用できる大切な学習です。実際に音を出すと，意識が音だけに向いてしまうこともありますので，こうした機会に楽しみながらポジション移動を覚えましょう。

第２学年　　題材３「ドレミで あそぼう」
♪うたに あわせて　がっきを ふきましょう。　「ぷっかり くじら」（２時間）

●今　何をする？●

★鍵盤ハーモニカを吹くことはできませんが，これまでに身に付けてきたポジション移動や階名唱を生かして，演奏したり旋律をつくったりします。

★心の中で歌ったり旋律のリズムを手拍子で打ったりして，歌詞の内容や旋律と曲想との関わりに気付き，表現の工夫につなげます。

☆鍵盤ハーモニカを大きく黒板に映して演奏する場所が分かるようにしておきます。

☆「せんりつあそび」をするときには教科書の絵譜を大きく掲示したり，音楽授業支援ＤＶＤを活用したりすると音の選び方が分かりやすくなります。

１　聴いて，感じて

◎「ぷっかりくじらはタッカタッカくじら？」

⑴　指導用ＣＤの範唱や範奏を聴いて気付いたことや感じたことを発表する。
- 旋律のリズムを手拍子で打ち，スキップのリズムが多いことに気付く。
- 既習の「かえるの がっしょう」をリズム打ちして比べてみると違いを感じ取りやすい。
- スキップのリズムが多いとどんな感じがするか，考えるよう促し，軽快な曲想を感じ取る。

⑵　自分や友達の気付きを確認できるよう再度聴き，心の中で歌詞唱する。

２　聴いて，まねして

◎　「ポジション移動はおまかせ？」

⑴　副次的な旋律の特徴に気付き，範唱に合わせて指で演奏（「指演奏」）する。
- 指導用ＣＤの階名唱・器楽を聴き，「ドレミ風船」や楽譜を指さしながら心の中で階名唱する。
- 教師に見えるように右手を挙げて，リズムに合わせて指番号通りに「指演奏」をする。
- 指導用ＣＤの階名唱・器楽に合わせ，心の中で階名唱しながら「指演奏」をする。
- 「かえるの がっしょう」で学んだ手のポジション移動を思い出すようにする。

⑵　範唱や教師の演奏する歌の旋律に合わせて，副次的な旋律を演奏する。
- 木琴やキーボードなどを使って交代で演奏する。

３　せんりつあそび

◎「つくって合わせよう！」

(1)　木琴や鉄琴，キーボードなどを使って，即興的に音を選んで旋律をつくる。

(2)　つくった旋律を聴き合う。
- 友達が選んだ音が分かるように掲示した絵譜を指すとよい。

(3)　つくった旋律を範唱に合わせて演奏する。

●評価

知　歌詞の表す情景や気持ち，歌声の響きや旋律の音の動きなどと曲想との関わりに気付いている。

知・技　音のつなげ方の特徴に気付き，提示された音を使って即興的に音を選んだりつなげたりする技能を身に付けてつくっている。

思・判・表　旋律の特徴や歌と楽器の音の重なりと曲想との関わりが生み出すよさや面白さを生かして，演奏の仕方を考え，どのように表現するかについて思いをもっている。

●これからどうする？●

机や椅子がない教室で学習できる場合は，旋律のリズムをスキップし，体の動きを通して特徴的なリズムを感じ取るようにします。スキップのリズムに意識を向けることで，実際に歌うときにも軽やかな歌い方ができます。

第２学年　　題材４「せいかつの 中に ある 音を 楽しもう」
♪みの まわりの 音を こえで あらわして，音楽を つくりましょう。
「さがして つくろう」（３時間）

●今　何をする？●

★身の回りで聞こえる音を楽器などで表現し，音を組み合わせて，強弱，重なり，反復などを用いて音楽をつくります。図工や生活科で手作り楽器を作って活用することもできます。

☆音程のない打楽器，身の回りにある物から見付けた音，手作り楽器など，実態に合った音具を用意します。

☆音楽授業支援ＤＶＤを活用すると，学習にスムーズに入れます。

1　聴いて，表して

◎「音を見つけてつくろう！」

⑴　授業支援ＤＶＤを活用して（音ノートの場面まで）どんな活動をするのかをつかみ，音を探しに学校内を探検し，見付けた音を「音ノート」に記録する。

・校庭のみ，教室前の廊下のみなど，広すぎない範囲で行うようにする。耳を澄ます，自分の声や音を出さないなど，教室の外へ出るときの約束をすることが大切である。

・「音ノート」には，自分の家の中や周囲の音探しを行って，それを記録してもよい。

⑵見付けた音の特徴に合った音具を選び，音の出し方，強い・弱い，高い・低い，長い・短いなどいろいろな音を試して，どのように表現するか工夫する。

2　聴いて，つくって

◎　「音を組み合わせてつくろう！」

⑴ ペアで自分のつくった音を紹介し合い，互いに見付けた音の特徴を知る。

⑵ 呼びかけとこたえで即興的にリレーをしたり，音を重ねて反復したり，いろいろなつなげ方を試す。

・強い・弱い，高い・低い，長い・短いなど，音の特徴も取り入れるように促す。

⑶ ペアでどのようにつなげたり重ねたりするかを相談する。二人でできる組合せを例示するとつくりやすい。

例）

⑷ つくった作品を発表する。

●評価

知①　生活の中で聞こえる様々な音の特徴に気付いている。

知②　様々な音のつなげ方や重ね方の特徴に気付いている。

技　様々な音を組み合わせ，反復を用いて音楽をつくる技能を身に付けてつくっている。

思・判・表①　様々な音の音色を聴き取り，それらの音や組合せのよさや面白さを感じ取りながら，どのように音で表すかを工夫しながら，音楽づくりの発想を得ている。

思・判・表②　様々な音の音色を生かし，その組合せが生み出すよさや面白さを感じ取りながら，音の重ね方や反復の仕方を考え，どのような音楽にするかについて思いをもっている。

態　身近な生活の中で聞こえる音から，身の回りにある多様な音に興味・関心を広げながら，様々な音を表現したり友達と音楽をつくったりする学習に楽しんで取り組もうとしている。

●これからどうする？●

声が出せるようになったら，いろいろな声の出し方を工夫してやってみましょう。「音ノート」づくりは，夏休みの課題にすることもできます。

小学校音楽科における授業再開後の指導事例集

教育芸術社　第一編集部

学校の授業再開後に音楽の授業を行う際、歌唱や一部の器楽の活動等が制限される状況が予測されるため、先にその対応の方法について例示いたしましたが、このたび改めて、各学年の教科書の題材及びそれに含まれる教材の指導において、特段の配慮を必要とするものについて、具体的な指導事例を作成いたしました。

今後の指導計画作成並びにご指導にあたって、お役立ていただければ幸いです。

第３学年　　題材１「音楽で心をつなげよう」
♪ 友だちへの思いをこめて歌いましょう。　　「友だち」（１．５時間）

●今　何をする？●

★歌詞を心の中で読んだり，指導用ＣＤの範唱を聴いたりしながら，曲想をつかみます。
★拍打ちや旋律のリズム打ちをしたり，感じ取ったことを簡単な体の動きで表現したりします。
☆電子黒板やプロジェクターなどを用意し，歌詞や曲の感じをクラス全員で共有できる場面をつくります。手話用の言葉のカードを作っておくとよいでしょう。

１　見て，聴いて

◎「どんな言葉，どこの旋律が気に入ったかな？」

⑴　歌詞の内容と曲想の関わりに気付き，聴き取ったり感じ取ったりしたことを共有する。
・歌詞を何回か黙読し，教科書の気に入った言葉に線を引いたり，教科書の余白に歌詞や指導用ＣＤを聴いて感じ取った曲想を書いたりする。例）優しい，ワクワクするなど
・指導用ＣＤを聴いたり，拡大した歌詞を指しながら自分の好きな言葉に手を挙げたりして，友達と共有できる場面もつくるようにする。曲想も共有できるように，児童の感じ取った言葉を教師が黒板に書き出すとよい。

⑵　指導用ＣＤを聴いて，旋律の特徴と曲想との関わりに気付く。
・指導用ＣＤを数回聴き，自分の気に入った旋律のところで頭に手を乗せる等の体の動きで，友達と気付いたことを共有できるようにする。また，旋律を覚えたらカラオケのＣＤをかけて心の中で歌ってみる。

２　聴いて，動いて

◎「音楽に合わせ体を動かしたり，手話をしたりしながら歌ってみよう！」

⑴ 指導用ＣＤを聴きながら体を動かし，前半と後半の曲想の違いを感じ取る。
・前半と後半とのピアノ伴奏の違いに気付き，前半のなめらかな感じは体を横に，後半の少し弾んだ感じは軽く膝の上で手を打つなど体を動かすようにする。また，教師も一緒に動き，フレーズや音の高さに合わせて手で旋律線を描くようにする。（互いがぶつからないようにスペースを取り，動作をする人と見る人を分けるとよい。）

⑵ 拍を打ったりリズム打ちしたりして，旋律を覚える。
・指導用ＣＤを聴き，拍打ちしながら体を動かして旋律を覚えるようにする。また，教科書の８分休符を〇で囲み，曲の感じを生かしたリズム打ちができるようにする。リズム打ちは全員やリレー形式等工夫すると楽しい。手拍子は優しく打ち，旋律をよく聴くようにする。

⑶ 指導書研究編巻末にある手話を参考にする。
「きみのこと」「しらなかったよ」「おなじ」などの歌詞カードを黒板に貼り，教師が示しながら体の動きを付けて心の中で歌う。難しい場合は「わらう」「とき」「はしる」「うたう」など身近な言葉のみを扱ってもよい。

●評価●

知　旋律の特徴や歌詞の内容と曲想との関わりに気付いている。
思・判・表　歌唱表現の知識を得たり生かしたりしながら，前半と後半の曲の特徴を捉えて体の動かし方を工夫し，どのように歌うかについて思いや意図をもっている。

●これからどうする？●

児童が今まで経験した手話の歌をＣＤで合わせたり，「友だち」も手話でもできるようにしたりして，声を出して歌える時にみんなで楽しく歌えるようにしましょう。

第３学年　　題材２「歌って音の高さをかんじとろう」
♪ 音の高さに気をつけながら，歌ったりひいたりしましょう。　「ドレミで歌おう」(0.8 時間)

●今　何をする？●

★音の高さを確かめながら歌詞やドレミで歌い，ハ長調の楽譜を見て視唱する活動を進めます。楽器を演奏することはできませんが，机の上で、指くぐりや指またぎの練習をして運指を覚えるようにします。

★「新しく覚えること」を見ながら，ト音記号や小節など様々な記号の名前を覚えます。

☆掲示の用意をするもの…付属品のドレミ風船・指番号・五線上の音符の位置を覚えるための絵

☆電子黒板またはプロジェクター，音楽授業支援ＤＶＤ，二次元コード

1　見て，聴いて

◎「楽譜をよく見て心の中で歌おう！」

⑴　曲名を確認し，歌詞を黙読する。

・階名が書かれていない部分を「ドレミ」で読んでみようと発問する（心の中で読む，小さな声で読む）。白抜き文字の部分で確かめたり，教師が旋律を弾いたり指導用ＣＤを聴いたりして，旋律の動きや繰り返しに気付き，階名を読めるようにする。階名を直接，教科書に書き入れてもよいことにする。

・音の高さを確かめながら，歌詞や階名を心の中で歌う。

⑵　音の高さを確かめながら，読譜に慣れる。

・旋律を覚えたら，p.9 の音階を指さしながら心の中で歌うようにする。教師が旋律を弾き（初めはゆっくり→だんだん速くしていく），となりの友達と４小節交代，２小節交代にしたりするなど，声には出さずに，目で互いに確認しながら楽しんで活動できるようにする。

・音程感覚をさらに育てるために，ドレミ風船を活用し指でたどるようにしたり，立って体を使って動いたりする活動も取り入れる。（クラスの人数や教室の空間に配慮をする。）

2　動いて，描いて

◎　「楽譜にもっと親しもう！」

⑴ 階名とト音譜表に親しむ。

・五線上の音符の位置を覚える手の絵（※別紙１）を掲示し，教師と一緒に，児童が自分の手で「だんごはミソシレファ」，サンドイッチは「レファラドミ」と心の中で唱えながら繰り返すようすると覚えやすい。

・教科書のハ長調の音階を４分音符で書いたり，ト音記号を書いたりしながら楽譜に親しむ。４分音符は棒の向き，ト音記号は書き出しの位置（ソの音）などに気を付けるようにする。（音楽授業支援ＤＶＤの「音符の書き方」を見たり，ト音記号は書き始める前に教師が黒板にゆっくり書き，児童は一緒に空中に書く練習をしたりしてから教科書に書くとよい。）

⑵ 音楽授業支援ＤＶＤや二次元コードを活用し，「指またぎ」「指くぐり」を理解する。

・黒板に拡大した指番号の絵（※別紙２）を掲示し，運指を確かめながら，何回も机の上で練習をする。

・音がなくても友達と確認し合ってサインを出したり，教師がシールやスタンプを押したりするなど，児童一人一人が達成感を味わえるように工夫したい。

●評価

技　ハ長調の楽譜を見て視唱する技能を身に付けている。

●これからどうする？●

この機会に，児童の気付きを大切にしながら，読譜学習の意欲を高めるようにし，記号や音符を書く活動を継続していくことが大切です。

第３学年　　題材２「歌って音の高さをかんじとろう」
♪ 音の高さに気をつけて，明るい声で歌いましょう。　　「春の小川」（１時間）

●今　何をする？●

★指導用ＣＤの範唱を聴いて春の様子を思い浮かべたり，階名に親しみ，旋律の音の動きを感じ取ったりする学習を中心に進めます。

☆電子黒板やドレミ風船を活用し，音の高さを可視化し，拡大楽譜を用いて階名を読むことに興味・関心をもてるようにします。

１　見て，聴いて，感じて

◎「情景を思い浮べ，旋律の特徴に気付き，心の中で歌おう」

⑴ 指導用ＣＤの範唱を聴き，歌詞の表す情景を思い浮かべ，曲想をつかむ。
- 春の様子を表している歌詞と明るい曲想が関わっていることに気付くようにする。
- 写真や挿絵を見て，身近な春の景色を思い起こす。

⑵ 教科書の楽譜を見て，フレーズごとの旋律の特徴に気付く。
- ４分音符の連続，旋律の反復，似ている部分，異なる部分に気付く。

⑶ 音の高さに気を付けて心の中で歌う。
- 手や指を動かすなど体の動きを使ったり，ドレミ風船を活用したりして音の高さを表し，指導用ＣＤの範唱を聴きながら心の中で歌う。

２　聴いて，書いて

◎ 「音の高さに気を付けて，心の中で階名視唱しよう。」

⑴ 旋律の反復や変化，特徴を確かめながら階名を書く。
- 自信をもって読める階名などは書かないようにし，書いた階名も徐々に消していく。

⑵ 音の高さに気を付けて指導用ＣＤの範唱を聴きながら心の中で階名視唱をする。

⑶ 息つぎ(ブレス)の記号について知る。

●評価

知・技　**旋律の特徴や歌詞の内容と曲想との関わりに気付き，ハ長調の楽譜を見て表現する技能を身に付けている。**

思・判・表　**曲想と旋律の特徴や歌詞の内容との関わりから気付いたことを生かしながら，曲の特徴を捉えた体の動きなどの表現を工夫し，どのように表現するかについて思いや意図をもっている。**

●これからどうする？●

音楽の授業のはじめや終わりに何度も聴くことで自然に「春の小川」を覚え，歌唱活動が可能になったときにすぐ歌えるようにしておきましょう。また，階名唱の範唱を多く聴くことでハ長調の階名を無理なく読めるようになると考えられます。

第３学年　題材２「歌って音の高さをかんじとろう」
♪ 楽器と合わせて，明るい声で歌いましょう。　「海風きって」「せんりつづくり」（３時間）

●今　何をする？●

★指導用ＣＤの範唱を聴きながら心の中で歌って，前半と後半との旋律の違いに気付いたり，後半の旋律の一部分をつくり歌の旋律と重ねたりして，旋律に着目する学習を充実させます。
☆木琴，鉄琴，電子オルガン，音楽授業支援ＤＶＤ，（タブレットの鍵盤）など。
☆交代で使うので消毒液を用意します。

１　聴いて，感じて

◎「旋律の特徴に気付き，音の高さに気を付けて階名視唱しよう。」

⑴ 指導用ＣＤの範唱(以下，範唱)を聴いて，ア と イ の旋律の特徴に気付く。
・楽譜を見たり ア と イ の旋律を聴き比べたりして，範唱を聴き，ア は弾むようなリズム，イ はのびやかなリズムの旋律であることに気付くようにする。
・曲想を感じ取り，範唱を聴きながら ア の旋律を心の中で歌う。

⑵ 音の高さに気を付けて階名を心の中で歌い，鍵盤で確かめる。
・教科書 p. ９のハ長調の音階を参考にして，p. 12 の◯の中に イ の部分の階名を書き，心の中で階名視唱する。
・準備できる鍵盤楽器の数に合わせて児童を振り分け，全員で順に イ を演奏する。

２　見て，つくって

◎ 「旋律をつくって重ねよう」

⑴ いろいろな音のつなげ方を試し，旋律をつくる。
・教師が イ の最後２小節の旋律を新たにつくり，児童に違いを気付かせ,意欲と見通しをもたせる。（音楽授業支援ＤＶＤ参照）
・「せんりつづくり」の「れい」を見て，旋律づくりの方法を知る。
・挿絵の中から好きな音を選んでつなぎ，旋律をつくり p. 13 の◯に階名を書き入れる。
・ つくった旋律を鍵盤楽器で一人ずつ演奏する。

⑵ イ の旋律とつくった旋律と重ねて演奏したり，範唱に合わせて演奏したりする。
・楽器の数を考えてグループをつくり，イ のもとの旋律をグループで演奏し，つくった旋律をメンバーの一人が重ねて演奏する。
・ア→イ→ア＋イ で演奏している範唱に合わせて，つくった旋律を演奏する。
例）ア＋＜１グループの代表児童がつくった旋律＞→イ＋＜１グループでイ＞→等

●評価

知・技　旋律の音のつなげ方の特徴に気付き，提示された音に基づいて，即興的に音を選んで旋律をつくる技能を身に付けて音楽をつくっている。

思・判・表　旋律や音色を聴き取り，それらの働きが生み出すよさや面白さ，美しさを感じ取りながら，どのように音を合わせて表現するかについて思いや意図をもっている。

態　旋律の特徴に気付いたり，ハ長調の楽譜を見て演奏したりする学習に進んで取り組もうとしている。

●これからどうする？●

ここでの「せんりつづくり」は挿絵の中から音を選んでつなぐだけでできる,取り組みやすい活動であり,どんな鍵盤楽器でもつくることができます。次の「せんりつづくり」につなげられるように大切に扱いましょう。

第３学年
♪ 曲のかんじを生かして歌いましょう。　　「茶つみ」（１．５時間）

●今　何をする？●

★写真を見たり，歌詞を黙読したりして様子を思い浮かべ，曲全体の雰囲気をつかみます。
★拍や旋律のまとまりに気を付け，手遊びをしながら歌います。
☆電子黒板またはプロジェクター，（手遊び歌のＣＤ「アルプス一万尺」など）

１　見て，聴いて

◎「歌詞の表す情景を思い浮かべて，曲全体の雰囲気をつかもう」

⑴　歌詞の表す情景を思い浮かべる。
・茶畑の写真を見ながら歌詞を黙読し，意味の分からない言葉を確認したり，次ページのイラストや写真を見たりして，茶摘みの情景を思い浮かべるようにする。
・歌詞の言葉を指折り数えて確認し，７音の調子のよい言葉のリズムを感じるようにする。
・１・２番のどちらの歌詞が気に入ったか，気に入った言葉の横に線を引く。互いに共有できるように，電子黒板やプロジェクターで拡大した歌詞を教師が示し，児童は自分の気に入った言葉に手を挙げるようにする。

⑵　指導用ＣＤを聴き，曲全体の雰囲気を味わう。
・感じ取った曲想や曲の特徴を教科書の余白に書く。例）明るい，のどか，休符がたくさんあるなど。また，曲想も共有できるように，児童の感じ取った言葉を黒板に書き出すとよい。

２　聴いて，動いて（動いて，描いて等）

◎　「旋律の特徴に気付き，拍にのって手遊びをしよう」

⑴ 指導用ＣＤを何回も聴き、曲の特徴をつかむ。
・児童が気付いた４分休符を〇で囲んだり，付点音符のリズムの感じをつかんだりする。
・指導用ＣＤに合わせ手拍子で旋律のリズム打ちをする。４分休符の手の動きを決め，タイミングを揃えるようにする。手拍子は強さを考え，旋律をよく聴いて打つようにする。
・指導用ＣＤに合わせ，正しい音程で歌えるように，フレーズごとに旋律線を手で描く。また，音程感をつかめるように上下に手を動かして心の中で歌うようにする。
・特に音程を間違えやすい「やまにも」の「やまに」の部分はゲーム的なものを取り入れ，手の動きを隣どうしで確認したり，教師の動きの正誤を児童が判定したりするようにしてもよい。
・p. 17 の手遊びの例を見ながら，ゆっくり手遊びを覚える。今回は一人で行うようにし，休符の手拍子をみんなで揃えてできるように練習をする。また，ほかに知っている手遊び歌を楽しむようにしてもよい。　例）「アルプス一万尺」（ＣＤをかけるようにする。）

●評価●

態　**曲想と歌詞の内容や旋律の特徴，フレーズの関わりに興味をもって，進んで学習に取り組もうとしている。**

思・判・表　**旋律や拍，フレーズを聴き取り，それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら，聴き取ったことと感じ取ったことの関わりについて考え，曲の特徴を捉え，どのように表現するかについて思いや意図をもっている。**

●これからどうする？●

一人の手遊びを考えて紹介し合うようにすます。また，教科書や指導書研究編図書室の「お茶の話」から取り出して話をして，児童が次に歌うまでお茶に興味をもち続けるようにするとよいでしょう。

第３学年　　題材４「拍にのってリズムをかんじとろう」
♪２拍子にのってえんそうしましょう。　「ゆかいな木きん」（２～３時間）

●今　何をする？●

★拍を感じ取って２拍子の指揮をしたり，手足や楽器を使ってリズムを演奏したりするようにします。

☆楽譜の黄色いリズムの部分は，実際の「木琴」を使ってリズムを演奏するとよいでしょう。マレットを２本使って両手で演奏する練習をしたり，音高やマレットの材質を変えて表現の工夫をしたりします。

１　見て，聴いて

◎「２拍子の拍にのって，体を動かしてみよう」

⑴　何拍子の曲なのかを考えながら指導用 CD を聴き，「４分の２拍子」を知る。

・第２学年の「はくのまとまりをかんじとろう」の学習を想起し，２拍子の指揮のまねや手遊びをしたりしながら指導用 CD を聴く。

・教師が旋律を弾きながら伴奏する場合や，CD の音源の速度を変えられる場合は，いろいろな速度の演奏で指揮のまねをするのも面白い。

２　聴いて，動いて

◎　「歌に合わせて，手足や楽器でリズムを演奏しよう」

⑴　指導用 CD を聴きながら，黄色いリズムの部分を拍手や足の踏み鳴らしで表現する。

・教師が旋律を弾きながら伴奏する場合は，速度を変化（遅く，速く，途中で変える，等）させると楽しみが持続する。

⑵　指導用 CD や教師の伴奏を聴きながら，黄色いリズムの部分を木琴で演奏する。

・木琴やマレットが足りないときは，木琴の鍵盤を表現したプリントをつくり，その上を鉛筆等で軽く叩いて演奏し，交替で木琴の演奏を行うようにする。

・木琴で演奏するときは，様々な材質のマレットを使って出せる音を試したり，オクターブを変えて音高を変化させたりして，こざるやこぶたが履く木ぐつの様子を表現できるようにするとよい。

・発展的に，楽譜の白い部分をオルガンや鉄琴で演奏し，フレーズの前半と後半で分かれて交互奏を行うのも面白い。

●評価

知　拍子やリズム，旋律と曲想との関わりに気付いている。

思・判・表　拍子やリズム，旋律と曲想との関わりから気付いたことを生かして，旋律の特徴を捉えた表現を工夫し，どのように演奏するかについて，思いや意図をもっている。

態　拍子やリズム，旋律と曲想との関わりに興味・関心をもち，互いの音を聴き合って演奏する学習に進んで取り組もうとしている。

●これからどうする？●

リコーダーは頭部管を外して指だけで練習したり，鍵盤ハーモニカは鍵盤を押さえる練習のみを練習したりして，吹奏を伴う演奏活動が可能になったときに改めて復習することもできます。

第３学年　　題材５「せんりつのとくちょうをかんじとろう」
♪せんりつの音の上がり下がりをかんじとって歌いましょう。「**とどけよう　このゆめを**」
♪せんりつのとくちょうを生かしてえんそうしましょう。「**あの雲のように**」（合計 2～3 時間）

●今　何をする？●

★３拍子や４拍子の拍の違いを感じ取って体を動かしたり，曲想とその変化を感じ取って指揮のまねで表現したりします。

☆指揮は手で行いますが，リコーダーのお手入れ棒等を指揮棒に見立てて使ってもよいでしょう。

１　見て，聴いて

◎「３拍子や４拍子の拍にのって，体を動かしてみよう」

⑴指導用 CD で「とどけよう　このゆめを」と「あの雲のように」を曲想の違いを感じ取りながら聴き，「４分の３拍子」「４分の４拍子」を知る。

・「とどけよう　このゆめを」と「あの雲のように」を聴き比べ，２つの曲の違いについて話し合う。

・「とどけよう　このゆめを」は４分の４拍子，「あの雲のように」は４分の３拍子であることを知る。（拍子の違いを感じ取りながらもう一度指導用 CD を聴く。）

⑵３拍子や４拍子の特徴をつかみ，拍に合わせて体を動かしたり，指揮のまねをしたりする。

・拍子の拍の特徴に合わせ，体を揺らしたり，足踏みをしたりする。

・３拍子や４拍子の指揮の仕方を知り，指導用 CD の音楽に合わせて指揮のまねをする。

２　聴いて，動いて

◎　「曲想や旋律の変化を感じ取って，指揮で表現しよう」

⑴「とどけよう　このゆめを」と「あの雲のように」を聴き比べ，曲想にふさわしい指揮の仕方を考える。

・手の動きによってキビキビとした感じを出したり，なめらかな感じを出す方法を知り，指導用 CD に合わせ，曲の感じが出るように指揮のまねをする。

⑵「とどけよう　このゆめを」の$\boxed{ア}$→$\boxed{イ}$の旋律の変化を感じ取り，指揮で表現する。

・同じ４拍子の指揮でも，手の動きを機敏にしたり，柔らかくしたりすることで，曲の感じの違いを表現できることを知る。

・指揮の仕方についてアドバイスをかけながら，友達と互いの指揮を見合う。

●評価

$\boxed{知}$　**旋律の特徴や拍子と曲想との関わりに気付いている。**

$\boxed{思・判・表}$　**旋律の特徴や拍子と曲想の関わりについて考え，指揮の仕方を工夫し，どのように表現するかについて思いや意図をもっている。**

$\boxed{態}$　**旋律の特徴や拍子と曲想との関わりが生み出すよさや面白さへの興味・関心をもち，それらの特徴を生かした指揮の仕方の学習に進んで取り組もうとしている。**

●これからどうする？●

４分の３拍子，４分の４拍子の曲を教科書や歌集等から見つけ出し，演奏を聴きながら指揮で表現する活動を継続して行っていきます。

第３学年　　題材５「せんりつのとくちょうをかんじとろう」
♪曲の山をかんじながら歌いましょう。　「ふじ山」（1～2 時間）

●今　何をする？●

★歌詞の表す情景を思い浮かべながら指導用 CD の範唱を聴いたり，旋律の特徴や変化を感じ取って手の上げ下げの動きや指揮の動作で表現したりします。

☆指揮は手で行いますが，リコーダーのお手入れ棒等を指揮棒に見立てて使ってもよいでしょう。

1　見て，聴いて

◎「富士山の雄大な景色を思い浮かべながら聴こう」

⑴　歌詞を音読（黙読）し，歌詞の表す情景を理解する。

・教科書 p.38～41 の写真を見たり，関連する画像や映像を見たりして，富士山の雄大な景色を思い浮かべるようにする。

・富士山について知っていることや，歌詞の比喩表現等について意見を交換したりメモしたりする。

⑵　指導用 CD を聴き，歌詞の内容や旋律について気付いたことを発表する。

・拡大楽譜を用意したり，教科書の楽譜の旋律をなぞったりして，旋律の音の上がり下がりなどの特徴をつかむようにする。

2　聴いて，動いて

◎　「旋律の特徴やその変化を感じ取って，手の上下の動きや指揮で表現しよう」

⑴　範唱を聴きながら，旋律の抑揚や曲の山を感じ取って手の動きや指揮で表現する。

・楽譜を見て旋律の動きを手の上下の動きで表しながら，山々の連なりを表しているような旋律の特徴や，後半の「曲の山」を理解する。

・柔らかい手の動きや指揮の形の大きさの違いで旋律の抑揚や音量の変化を表しながら，指導用 CD に合わせて指揮をする。

・指揮の仕方についてアドバイスをかけながら，友だちと互いの指揮を見合う。

⑵　旋律の特徴と曲想との関わりや，歌詞の内容と曲想との関わりについて考えを深める。

・旋律の動きの面白さや，歌詞の内容と曲想との関わりについて話し合い，そのよさに気付くようにする。

・歌詞の表す内容や旋律の抑揚，曲の山など，曲全体の構成を意識してもう一度指揮をする。

●評価

知　**音の上がり下がりなどの旋律の特徴や歌詞の内容と曲想との関わりに気付いている。**

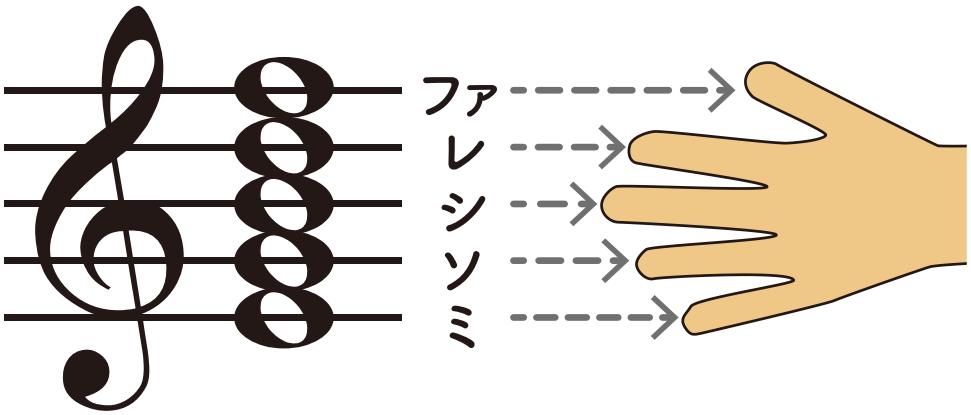
思・判・表　**旋律の特徴や歌詞の内容，強弱の変化などと曲想の関わりについて考え，曲の特徴を捉えた表現を工夫し，どのように表現するかについて思いや意図をもっている。**

態　**曲の山を生かして，歌詞の内容や旋律の特徴が生み出す曲想にふさわしい表現を工夫する学習に進んで取り組み，旋律の特徴や歌詞の内容との関わりについて興味・関心を深めようとしている。**

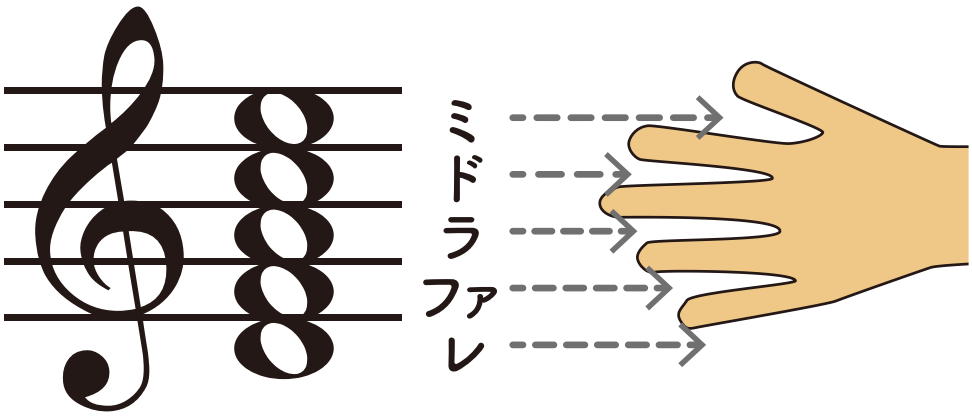
●これからどうする？●

指揮をする活動は，旋律の特徴を捉え，どのように歌うのかについて考える際に，とても有効に働きます。歌える時期になったら，この経験を生かして曲想豊かに歌ってほしいものです。

〔別紙１〕

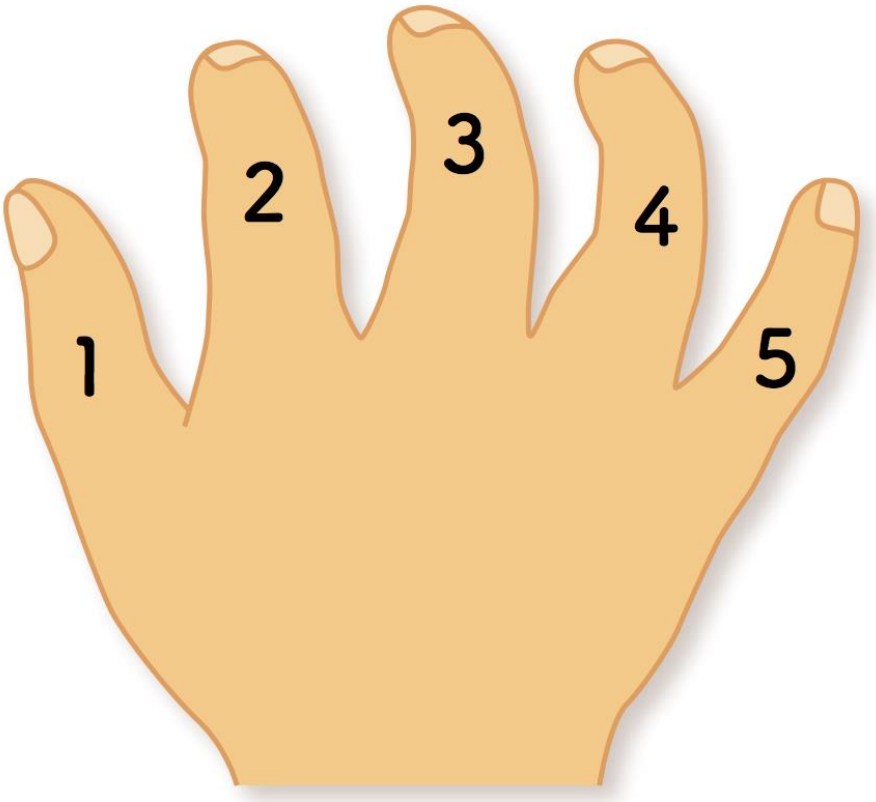


第１線～第５線上の音符がそれぞれの指先に対応



下第１間～第４間の音符がそれぞれの指の間に対応

〔別紙２〕



小学校音楽科における授業再開後の指導事例集

教育芸術社　第一編集部

学校の授業再開後に音楽の授業を行う際、歌唱や一部の器楽の活動等が制限される状況が予測されるため、先にその対応の方法について例示いたしましたが、このたび改めて、各学年の教科書の題材及びそれに含まれる教材の指導において、特段の配慮を必要とするものについて、具体的な指導事例を作成いたしました。

今後の指導計画作成並びにご指導にあたって、お役立ていただければ幸いです。

第４学年　　題材１「音楽で心の輪を広げよう」
♪思いをこめて歌いましょう。　　「花束をあなたに」（２時間）

●今　何をする？●

★聴いているだけで爽やかな気分になる曲です。指導用ＣＤをフルに活用して，心の中で歌ったりハミングしたりして曲に親しみます。また，伴奏にも着目するように促します。

☆電子黒板やプロジェクター，拡大楽譜を活用すると，各児童が考えた歌い方について学級全員で共有することができます。また，児童の思いや意図を書き込める付箋やワークシート，タブレットを活用すると，歌えるようになったときに活用できます。

１　聴いて　感じて

◎「どんな歌だろう？」

⑴　曲想と旋律の特徴や歌詞の内容との関わりに気付く。

・指導用ＣＤの範唱（以下，範唱）を聴いたり歌詞を黙読したりして，気付いたり感じたりしたことを教科書等にメモし，教師がそれを代読したりプロジェクター等に写したりして共有する。

・楽譜を見ながら，範唱に合わせて心の中で歌ったりハミングしたりする。

・２段目１小節目の♭（フラット）の記号と意味を知り，旋律の音の動きを手の動きで表したり指で音符をなぞったりしながら，範唱に合わせて心の中で歌う。

２　聴いて　イメージして

◎「どんな感じに歌うといいかな？」

⑴　伴奏を聴き，心の中で歌いながら歌の旋律と伴奏と関わりを捉え，歌い方を考える。

・心の中で歌いながら指導用ＣＤのカラピアノや教師のピアノ伴奏を聴き，前半と後半の伴奏の違いに気付き，どのような感じかについて付箋等にメモする。

例）児童Ａ：「前半の伴奏は，優しい感じだけど，歌の旋律は音が飛んでる？」
　　児童Ｂ：「後半は，リズムを刻んで，『とどけよう』という気持ちが高まっていく。」

・旋律と伴奏との関わりに気を付けながら範唱を聴き，自分の考えを整理し付箋に記入する。

例）児童：「最後の『とどけよう』に向かって，３段目からリズムにのった伴奏に合わせて少しずつ盛り上げていきたい。後半の旋律は，音の動きが前半ほど大きくないから少しずつ盛り上げていきやすいと思います。」

⑵　考えた歌い方を伝え，拡大楽譜や教科書を見ながら，範唱や伴奏に合わせて心の中で歌う。

・児童の書いた付箋を拡大楽譜に貼ったり，内容ごとにまとめて模造紙に貼ったりして各自の思いや意図を共有する。

●評価●

知　**曲想と旋律の特徴や歌詞の内容との関わりについて気付いている。**

思・判・表　**歌唱表現の知識を得たり生かしたりしながら，前半と後半の曲の特徴を捉えた表現を考え，どのように歌うかについて思いや意図をもっている。**

態　**曲想と旋律の特徴や歌詞の内容との関わりに興味・関心をもち，思いや意図をもって表現しようとする学習に進んで取り組もうとしている。**

●これからどうする？●

歌うことに夢中になるだけでなく，伴奏の役割を考えるよい機会です。伴奏によって音楽の雰囲気が変わることを感じ取っておくことは，今後の歌い方の工夫への一助となります。

第４学年　　題材２「歌声のひびきを感じ取ろう」
♪歌詞の表す様子を思いうかべながら，のびやかな声で歌いましょう。**「まきばの朝」（１時間）**

●今　何をする？●

★題材「歌声のひびきを感じ取ろう」は，現状で扱うことは難しい題材であるため，２学期以降に移行しています。「まきばの朝」は，教科書では本題材にて展開するように掲載されていますが，歌唱共通教材の重要な「日本の季節を感じる」役割を考慮し，ここに示しています。歌詞が見事な七五調でつくられ，牧場の早朝の様子が時間の経過とともに１～３番の歌詞に表されています。その美しい言葉のリズムと旋律やフレーズとの関わりに気付きながら，歌への思いを高めていきます。

☆「文字抜き歌詞カード」などを用意して，歌詞を書く活動が行えるようにします。また，日本の牧場の写真や動画を見て歌詞の表す情景を思い浮かべるとより歌詞の内容に親しみがもてます。教科書 p. 17 の二次元コードを読み取ると，１人でも本教材を聴くことができます。

１　見て　聴いて

◎「どんな風景を歌っているのかな？」

⑴　歌詞の内容を理解して，牧場の早朝の情景や時間の移り変わり等を想像しながら心の中で歌う。

・指導用ＣＤの範唱（以下，範唱）を聴き，情景を想像する。

・教科書を伏せ，範唱を何度も聴きながら，「文字抜き歌詞カード」（右図の例参照）に抜けている歌詞を書き，歌詞の表す情景，時間の経過，人々の動きなど，気付いたことを余白にメモしておく。

例）

一　□□□□□
ただ一面に　□□□□□
□□□□□□　きりの海　□□□□□
ポプラなみ木の　□□□□□
黒いそこから　□□□□□
□□□□□□□　□□□□□

まだ，太陽が昇ってない。きりがかかり、朝を告げる鐘だけが牧場のみんなを起こすようにひびいている。牧場は、朝が早い！静かに歌いたいけど、勇ましく鳴る鐘は，どうどうとね！

⑵「文字抜き歌詞カード」や縦書きの歌詞を黙読して，十分に歌詞の表す情景等に浸る。

⑶　範唱に合わせて心の中で歌ったりハミングしたりし，歌詞や旋律を覚える。

２　感じて　イメージを膨らませて

◎「言葉と旋律がどう関わっているかな？」

⑴　フレーズに気を付けて，言葉と旋律との関わりに気付く。

・縦書きの歌詞や「文字抜き歌詞カード」を見ながら，楽譜の各段の歌詞が，七五調でできていることに気付くようにし，フレーズの４拍目から始まる音に気を付けて，歌っているように旋律の音の動きに合わせて手を動かす。

⑵　言葉と旋律やフレーズとの関わりを意識して，どのように歌うかを考えながら，１～３番の手の動かし方を変えて心の中で歌う。

・どのように歌うかを考えたら，「文字抜き歌詞カード」に記入しておく。

●評価

知　歌詞の内容と旋律，フレーズと曲想との関わりに気付いている。

態　歌詞の内容と旋律，フレーズとの関わりが生み出すよさを感じ取りながら，歌詞の表す情景を想像しながらフレーズを意識して表現する学習に進んで取り組もうとしている。

●これからどうする？●

歌唱共通教材の中では，歌詞が分かりやすく日本の伝統的な七五調を味わうにはとてもよい教材です。国語の時間にも活用できると思います。また，フレーズと歌詞の七五調のまとまりを感じ取る活動は，フレーズの特徴を生かす豊かな歌唱表現につながります。

第４学年　　題材３「いろいろなリズムを感じ取ろう」
♪６拍子を感じながら歌いましょう。　　「風のメロディー」（１時間）

●今　何をする？●

★指揮のまねをする，楽譜をなぞりながら心の中で歌うといった活動を行いながら，繰り返し範唱を聴くことで，８分の６拍子の特徴と曲想との関わりを感じ取るようにします。

☆教科書の楽譜を拡大し，旋律を色ペンでなぞったものを用意することで，旋律の動きやフレーズを感じ取りやすくします。また，２拍子の指揮の動きを表す図（６年生の教科書 p. 37）を提示し，指揮のような動きをする手掛かりとします。

１　体を動かして感じ取る

◎「８分の６拍子の特徴を感じ取ろう」

⑴　「風のメロディー」の曲想をつかむ。

・教科書の挿絵を見たり歌詞を読んだりして，どんな歌か想像する。

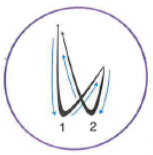
・指導用ＣＤの範唱を聴き，思い浮かべた情景や曲の感じについて意見を出し合う。

・手を軽く動かす，体を左右に揺らすなど，好きな聴き方で範唱を聴き，心の中で歌う。

⑵　８分の６拍子の特徴を感じ取る。

・教科書 p. 19 を見て，８分の６拍子の意味を知る。指導用ＣＤのピアノ伴奏を聴き，１小節を８分音符６拍で刻んでいることを感じ取る。

・２拍子の指揮の図を見て，範唱に合わせて指揮のまねをする。



２　楽譜から気付く

◎「旋律のまとまり（フレーズ）や強弱の変化を感じ取ろう」

⑴　旋律の動きやフレーズの特徴を感じ取る。

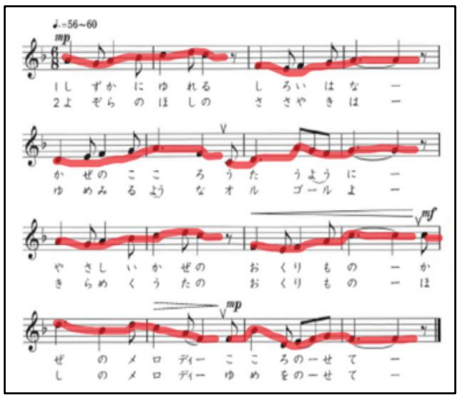
・範唱に合わせて拡大楽譜（旋律を色ペンでなぞったもの）を指さしながら聴く。休符やブレスの部分で軽く息を吸う。

⑵　強弱の変化を感じ取る。

・教科書 p. 19 で強弱記号の意味を知り，p. 18 の楽譜で確かめる。

・「風のメロディー」の曲の山（一番，盛り上がるところ）はどこか，意見を出し合う。

・３段目後半から４段目のはじめにかけての曲の山を感じ取り，範唱に合わせて手のひら全体で旋律線をなぞる動きをする。その際，友達と接触しないように気を付ける。



●評価

態　曲想と８分の６拍子の特徴との関わりについて興味・関心をもち，範唱に合わせて体を動かす学習に進んで取り組もうとしている。

知　曲想と８分の６拍子，旋律やフレーズ，強弱の変化との関わりについて気付いている。

●これからどうする？●

学級の朝の会や帰りの会の準備時間，給食の時間などのＢＧＭにすることで，歌唱教材や柔らかな歌声に親しむようにします。聴きなじみのある曲は子供たちもすぐに歌えるようになるため，歌唱活動が可能になった時期に授業の始めに歌う曲としてもよいでしょう。

第４学年　　題材３「いろいろなリズムを感じ取ろう」
♪手拍子のリズムを重ねてえんそうしましょう。
クラッピング ファンタジー 第７番「楽しいマーチ」（1.5 時間）

●今　何をする？●

★手拍子のリズムの反復や呼びかけとこたえの面白さを感じ取りながら音を合わせて演奏する学習です。少人数グループによるパート練習を避け，全体で互いの音を聴いたり，代表児童が聴いたりして，どのように音を合わせて演奏するか，考えるようにします。

☆指導用ＣＤの音源（カラピアノ＋鍵ハ）に合わせて，手拍子だけの演奏にします。鍵盤ハーモニカの代わりに，キーボードやオルガンで旋律を演奏することもできます。

１　拍にのってえんそうする

◎「くり返しや呼びかけとこたえを感じて，手拍子のリズムをえんそうしよう」

⑴　リズムの反復や呼びかけとこたえに気付く。

・教師が「楽しいマーチ」の$\boxed{イ}$や$\boxed{ウ}$に出てくるリズムパターンを打ち，それを全員でまねして手拍子で打つ。

・楽譜を見ながら指導用ＣＤの範奏（手拍子・器楽）を聴き，$\boxed{イ}$は８拍のリズムの反復，$\boxed{ウ}$は４拍のリズムの呼びかけとこたえになっていることに気付く。

・範奏に合わせて手拍子１や手拍子２のリズムを演奏する。強弱記号に気を付ける。

・「手拍子１」「手拍子２」のグループに分かれ，リズムを合わせて演奏する。

２　互いに聴き合い，音を合わせる

◎　「拍にのって，気持ちを合わせてえんそうしよう」

⑴　互いの音や伴奏を聴きながら，音を合わせて演奏する。

・「手拍子１」のグループが演奏し，「手拍子２」のグループは聴く。交替する。

・代表児童が２つのパートを合わせた演奏を聴き，「２つのパートのリズムの重なり，呼びかけとこたえが生きる演奏になっていたか」について意見を出す。それをもとに，よりよい演奏の仕方を全員で考える。

・他のパートや伴奏を聴き，リズムが重なるよさを感じ取りながら，音を合わせて演奏する。

●評価

$\boxed{態}$　拍にのり，友達と気持ちを合わせながらリズムを合わせて手拍子のリズムを演奏する学習に進んで取り組もうとしている。

$\boxed{思・判・表}$　リズム，拍，呼びかけとこたえ，音楽の縦と横との関係を聴き取り，それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら，曲の特徴を捉えた表現を工夫し，どのように音を合わせて演奏するかについて思いや意図をもっている。

$\boxed{技}$　互いの手拍子のリズムやキーボードの旋律，伴奏を聴いて，音を合わせて演奏する技能を身に付けて演奏している。

●これからどうする？●

授業の導入で演奏すると，友達と音を合わせる気持ちで授業を始めることができます。リズムに合う体の動きを工夫し，体全体でリズムを表現する楽しさを味わうのもよいでしょう。

第４学年　　題材３「いろいろなリズムを感じ取ろう」
♪拍にのって，歌と打楽器を合わせてえんそうしましょう。「いろんな木の実」（１．５時間）

●今　何をする？●

★ラテン打楽器の音色やリズムの特徴を感じ取って聴いたり，拍にのってリズムを演奏したりします。指導用ＣＤの音源（歌唱のみ，リズム伴奏入り）を適宜，使い分けましょう。

☆ギロ，マラカス，クラベスを複数，用意し，できるだけ多くの児童が体験できるようにします。交替するときは直接，手渡しせず，楽器置き場の机の上に置き，除菌用の消毒液などで拭いてから，次の児童が楽器を取りに来るようにします。

１　打楽器の演奏に親しむ

◎「ラテン打楽器のリズムに親しもう」

⑴　「いろんな木の実」の曲想を感じ取る
- 指導用ＣＤの範唱（歌唱）を聴き，曲の雰囲気を感じ取る。
- リピート記号の意味を知り，楽譜を指さしながら範唱を聴いて心の中で歌う。

⑵　打楽器の音色の特徴，演奏の仕方に気付き，リズムを演奏する。
- 指導用ＣＤの範唱（歌唱・器楽）を聴き，打楽器の音色やリズムについて気付いたことを発言する。
- 音楽授業支援ＤＶＤ「４．リズムばんそう」を視聴して，ギロ，マラカス，クラベスの演奏の仕方を知る。
- 範唱に合わせて交替で３種類の打楽器を演奏したり，演奏のまねをしたりする。

２　鑑賞から表現へ

◎「打楽器のリズムのおもしろさを感じ取りながらきいたり，演奏したりしよう」

⑴　打楽器の音色やリズムの特徴を感じ取って聴く。
- 「ピーナッツ ベンダー」を聴き，打楽器のリズム伴奏を聴き取る。３種類の打楽器から自分が担当したい楽器を選び，演奏するまねをしながら聴く。
- 気付いたことや感じ取ったことを発表したり，ワークシートに記入したりする。

⑵　打楽器の音色やリズムの面白さを感じ取り，拍にのって演奏する。
- ［１，４，５段目の旋律］は全員で，［２，３段目の旋律］は一種類の楽器の担当が交替で演奏して，打楽器の音色を生かしながら拍にのって演奏しているか，互いに聴き合う。

●評価

態　ラテン打楽器のリズムの特徴に興味・関心をもち，拍にのって音を合わせて表現する学習に進んで取り組もうとしている。

知　曲想やその変化と，打楽器の音色やリズム，音の重なりとの関わりに気付いている。

思・判・表　曲想と打楽器の音色やリズム，音の重なりとの関わりについて考え，リズムの特徴や面白さ，打楽器の音色を生かした表現を工夫し，どのように打楽器を演奏するかについて思いや意図をもっている。

●これからどうする？●

歌唱が可能になったら愛唱曲として取り上げることが考えられます。鑑賞参考音源「マンボ№５」と関連付けて聴き，「ピーナッツ ベンダー」との共通点と違いを見付けてもよいでしょう。

第４学年　　題材３「いろいろなリズムを感じ取ろう」
♪くり返しや変化を使って，リズムアンサンブルをつくりましょう。
「言葉でリズムアンサンブル」（２時間）

●今　何をする？●

★一つの言葉を素材にして，音楽の仕組みを生かしながらリズムアンサンブルをつくる学習です。「大きな声を出さない」「友達と対面しない」「近づき過ぎない」などに気を付けて活動します。

☆指導書実践編 p. 94 のワークシートを拡大したものを，適宜，配布します。密接しないためにグループに譜面台を用意し，個人またはパートごとにワークシートを見るようにします。

1　音楽づくりの方法を知る

◎「４文字の言葉でリズムアンサンブルをつくろう」

⑴　言葉のリズムを拡大したり縮小したりして，リズムをつくる。

・音楽授業支援ＤＶＤ「５. 言葉でリズムアンサンブル」（１分 20 秒まで）を視聴し，４文字の言葉のリズムを拡大したり縮小したりしてリズムをつくることを知る。

・教科書 p. 24 の「おまつり」を例に㋐，㋑，㋒のリズムを唱える。

・４人グループで自分たちがつくる音楽の４文字の言葉を選び，３種類のリズムで唱えたり，リズムをつなげたりして試す。

⑵　２つのパートに分かれてリズムアンサンブルをつくる方法を知る。

・支援ＤＶＤの続き（１分 20 秒以降）を視聴し，２つのパートに分かれてリズムアンサンブルをつくる方法を知る。教科書 p. 25 を見て，音楽の仕組みを生かしたつくり方を知る。

・グループで２つのパートに分かれ，リズムアンサンブルを４小節分つくる。

2　音楽の仕組みを生かしてつくる

◎「くり返しや変化を使って，リズムアンサンブルをつくろう」

⑴　リズムのつなげ方や重ね方を工夫し，音楽の仕組みを用いて音楽をつくる。

・前時につくったリズムアンサンブルをもとに，反復，呼びかけとこたえ，変化を使って，８小節のリズムアンサンブルをつくる。つくったリズムをワークシートに記入する。

・グループのワークシートを実物投影機などで拡大提示したものを見て，音楽の仕組みをどのように生かしているか，それぞれの工夫のよさに気付く。

・グループでつくったリズムアンサンブルを拍にのって演奏する。

●評価

態　言葉のリズムやその組合せに興味・関心をもち，友達とリズムアンサンブルをつくる学習に進んで取り組もうとしている。

思・判・表　言葉のリズム，反復，呼びかけとこたえや変化が生み出すよさや面白さを生かし，リズムのつなげ方や重ね方を工夫して，どのようにまとまりを意識したリズムアンサンブルをつくるかについて思いや意図をもっている。

知・技　言葉のリズムのつなげ方や重ね方のよさや面白さに気付き，反復，呼びかけとこたえ，変化を用いて，音楽をつくる技能を身に付けている。

●これからどうする？●

声を出して学習することができるようになったら，反復や呼びかけとこたえの効果が表れるように強弱の変化をつけるなど，より表現を工夫し，グループ発表会を行うことが考えられます。

第４学年　　題材４「ちいきにつたわる音楽に親しもう」
♪ちいきにつたわる民謡をきいたり歌ったりしましょう。　　「こきりこ」（1.5 時間）

●今　何をする？●

★鑑賞用ＣＤや音楽授業支援ＤＶＤ（以下，支援ＤＶＤ）を十分に活用し，鑑賞したり民謡の歌い方の特徴を聴き取ったりします。また，特徴のある楽器にも着目します。

☆指導書研究編 p.63 にあるワークシートを用意し，歌い方の特徴を書き留めたり，曲や楽器の音の響きなどについても，気付いたり感じたりして思ったことを記述したりします。

１　聴いて　感じて

◎「どんな旋律の民謡かな？」

⑴　鑑賞用ＣＤの歌と楽器の演奏を聴き，旋律の特徴を感じ取る。
- 民謡についての自分の経験を思い出しながら聴き，どんな感じの曲かメモをとる。
- 書いたメモを机上に置き，席を立って見合い，友達がどのように感じたかを知る。
  ※友達とぶつからないように距離を取って移動する。
- 再度，歌と楽器の演奏を聴き，気付いたり感じたりしたことを付け加えて記録する。

⑵　鑑賞用ＣＤの歌とこきりこの演奏や支援ＤＶＤの「『こきりこ』を歌おう」を視聴し，旋律の歌い方の特徴を感じ取る。
- 教科書の文字の楽譜や画面を見ながら聴いて，声を揺らしたり伸ばしたりしていることに気付き，口ずさむ。
- 手や指で文字の楽譜を指しながら，歌い方について気付いたり感じたりしたことを記録する。
- 友達の気付きを共有しながら，再度支援ＤＶＤを視聴し，歌い方の特徴をまとめる。

２　見て　まねして

◎「地域に根ざした楽器を知ろう！」

⑴　支援ＤＶＤの＜ばんそうで使われている楽器＞＜おどりで使われている楽器＞を視聴し，地域に根ざした特徴的な楽器について知る。
- ワークシートに楽器名や音の感じを擬音語で記入しながら視聴する。

⑵　支援ＤＶＤの「『こきりこ』をきこう」「『こきりこ』をおどろう」を視聴し，民謡のよさや面白さを味わって聴く。
- ワークシートに楽器の演奏の様子や踊り，音色の特徴など，気付いたことや感じたことについて，ワークシートにまとめる。
- 支援ＤＶＤを視聴しながら，楽器の演奏や踊りをまねして，民謡の雰囲気を味わう。

●評価

知　**歌声や楽器の音色，旋律などによる日本の民謡の特徴と曲想との関わりに気付いている。**

思・判・表　**音色や旋律の特徴を聴き取り，それらの働きが生み出すよさや面白さ，美しさを感じ取り，聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え，曲や演奏のよさなどを見いだし，日本の民謡を味わって聴いている。**

態　**音色や旋律の特徴などによる演奏のよさなどを見いだしながら日本の民謡を聴く学習に進んで取り組もうとしている。**

●これからどうする？●

文字の楽譜は，民謡の歌の楽譜として活用されています。第５学年の民謡の聴き比べの際にも，中学校での民謡を歌う学習にもつながっていきます。また，五線以外の楽譜にも触れることになります。

小学校音楽科における授業再開後の指導事例集

教育芸術社　第一編集部

学校の授業再開後に音楽の授業を行う際、歌唱や一部の器楽の活動等が制限される状況が予測されるため、先にその対応の方法について例示いたしましたが、このたび改めて、各学年の教科書の題材及びそれに含まれる教材の指導において、特段の配慮を必要とするものについて、具体的な指導事例を作成いたしました。

今後の指導計画作成並びにご指導にあたって、お役立ていただければ幸いです。

第５学年　　題材１「歌声をひびかせて心をつなげよう」
♪ 曲の特徴を生かして，明るい声で歌いましょう。　「こいのぼり」（２時間）

●今　何をする？●

★歌詞は七五調の文語体で，旋律もそれを生かしたものになっています。授業では，歌詞を覚えることから始めます。次に，歌詞の意味を知ったあと，指導用ＣＤの範唱などを聴いて情景を想像しながら日本語の美しさを感じ取れるようにします。また，特徴的なリズムや強弱，言葉を生かした表現の工夫なども行います。なお，実際に気持ちを合わせて歌う活動は後日とします。

☆準備するもの等

・拡大した縦書きの歌詞や楽譜（電子黒板や拡大提示装置を活用してもよい）
・教科書の挿絵写真「こいのぼり・かわら屋根・たちばなの花」の教師用デジタルテータ（指導書にセットの CD-ROM。教科書紙面から抜粋した画像データが収録されている）
・表現の工夫を書き込む楽譜のプリント（3 番までの歌詞を含む）

１　見て，聴いて

◎「歌詞の内容を理解し，情景を想像しながら音楽を聴こう！」

⑴　歌詞を見ながら教師の範読を聴き，言葉のまとまりに気を付けて歌詞を覚える。
・七五調の「七」の部分の範読を聴いて、「五」の部分の歌詞を頭に思い浮かべる。
・歌詞を覚えたら，難しい語句を教科書の説明や写真を参考にして，情景や大意をつかむ。

⑵　指導用ＣＤの範唱を聴き，全体の感じをつかみ旋律を覚える。
・繰り返し聴いてもよい。歌詞は見ない。分からない部分は歌詞を見て確かめる。
・曲の途中で，何度かボリュームを絞って音なしで聴いても，旋律が思い浮かぶかどうか確かめる。

２　聴いて，感じて

◎「リズムや強弱などの曲の特徴について調べ，曲にふさわしい表現を工夫しよう！」

⑴ タッカのリズムに着目して曲想と音楽の関わりについて考える。
・もとの旋律と，タッカをタタのリズムに変えた旋律との歌い比べを聴く。
・タッカのリズム部分の音の上り下がりについて確認する。
・歌詞と関わって，感じたことや気付いたことを楽譜プリントに書き込み，発表する。
例) タッカのリズム：勇ましい。瓦の形みたい。１つだけ下行であとはすべて上行。

⑵　旋律の音の動きや強弱記号から，曲の山を見付け，歌い方の工夫を考える。
例) １段目と２段目が同じ音型。３段目が mp で橘の花が香る感じ。４段目が f で音符も長くなり盛り上がる(曲の山)。七五調だけれど「４＋３，３＋２」など言葉を分けられ，同じ旋律でも言葉によってリズムのまとまりが異なる。

●評価

態　曲の特徴を感じ取って聴く学習に，友達と協働して，主体的に取り組もうとしている。
思・判・表　曲想と歌詞の内容や音色，リズム，旋律の反復や変化，強弱との関わりについて考え，曲の特徴にふさわしい表現を工夫し，どのように歌うかについて思いや意図をもっている。
知　曲想と歌詞の内容や音色，リズム，旋律の特徴，強弱との関わりを理解している。

●これからどうする？●

教科書 p.15 の二次元コードからも曲について知ったり範唱を聴いたりして，家庭学習に生かすようにします。歌詞を確実に覚えることで，旋律の流れも身近となり一人でも歌えるようになります。

第５学年　　題材３「いろいろな音色を感じ取ろう」
♪ いろいろな楽器の音が重なり合う響きを楽しみながら演奏しましょう。**「リボンのおどり」（３時間）**

●今　何をする？●

★「リボンのおどり」はリコーダーや鍵盤ハーモニカなどを含めた器楽教材ですが，旋律楽器は鍵盤楽器に変えます。合奏を楽しみながらいろいろな音色を感じ取り，後日，楽器を加えて工夫した表現を発表できるようにします。

☆準備するもの等
- 拡大楽譜，音楽授業支援 DVD，キーボード(できれば 2 台)，木琴，鉄琴，低音楽器，タンブリン，小太鼓など（各楽器のバチは複数組)，消毒用アルコール
- 曲の構成を書き込むワークシート（もしくは指導書実践編 p. 93）

1　見て，聴いて，演奏する

◎「各パートの旋律の特徴をつかんで演奏しよう！」

⑴　拡大楽譜を見ながら指導用ＣＤを聴き，曲全体の感じをつかむ。
- リコーダー1，2 のパートに階名を書き，範奏に合わせて指で差しながら追う。
- 続いて木琴，鉄琴のパートも同様に指差しで追う。アクセントの意味についても知る。
- 打楽器の２つのパートを手拍子で打ってリズムを覚える。前奏として 4 拍打つとよい。
- 授業支援 DVD などで，へ音譜表の読み方やへ音記号について知る。
- 低音のパートに階名を書き，範奏に合わせて指差しで追う。模擬鍵盤奏をしてもよい。

⑵　5 つのパート（楽器）を教室の中でそれぞれ離れるように配置し，交替して練習する。
- 練習時間を分けて人が密集しないようにする。また，バチや鍵盤は交替時に消毒する。
- ある程度パート練習ができてきたら，ピアノ伴奏や指導用ＣＤに合わせて演奏する。

2　聴いて，感じて，工夫する

◎　「重なり合う響きの変化の面白さを生かして，表現を工夫しよう！」

⑴ グループで演奏する楽器を決めて，曲の構成を考えて表現を工夫する。
- 曲全体のまとまりを考えながら，グループで演奏の仕方を工夫する。このとき，クラスの人数が多い場合は，一斉に練習をするのではなく，密集を避けて，「リズム打ち」「構成を考える」など，役割を分けて時間を決めて交替で行うようにする。

3　演奏して，聴き合い，工夫を感じ取る

◎　「グループで工夫した《リボンのおどり》を発表しよう！」

⑴ 工夫したことを振り返り，音量のバランスに気を付けて，拍にのってグループで演奏する。
- 感想が書かれたプリントは，後日，教師がまとめてプリントにし，相互評価に役立てる。

●評価

1　知・技　曲想と音色やリズム，旋律の特徴，音の重なりなどとの関わりを理解し，ト音譜表やへ音譜表の楽譜を見て演奏する技能を身に付けて演奏している。

2　思・判・表　楽器の音色，各声部の重なりや響きなどを聴き取り，それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら，パートの重ね方や楽器の演奏の仕方を工夫し，どのように演奏するかについて思いや意図をもっている。

態　楽器の音色やいろいろな音が重なり合う響きに興味・関心をもち，パートの重ね方を工夫する学習に主体的に取り組もうとしている。

3　知・技　楽器の音色や各声部の重なりによる響きと演奏の仕方との関わりを理解し，各声部の響きや全体の響きを聴いて，音を合わせて演奏する技能を身に付けて演奏している。

●これからどうする？●

ここでの活動は，楽器の音色を手掛かりに鑑賞の学習や，曲や旋律等に合う楽器を選択して合奏する学習などにつながる大切な学習です。音量のバランスにも気を付けられるとより効果的に演奏できます。

第５学年　　題材４「和音の移り変わりを感じ取ろう」
♪ 和音の移り変わりを感じながら演奏しましょう。　**「静かにねむれ」（２時間）**

●今　何をする？●

★題材２「音の重なりを感じ取ろう」は，現状を踏まえると設定しづらいので９月以降に移し，題材４「和音の移り変わりを感じ取ろう」を先に取り上げます。伴奏の和音を聴き取って演奏できると，歌や楽器を演奏する活動が再開されたときに，これまでとは一味違った旋律表現が可能となります。旋律と和音の関係を感じ取りやすい教材ですので，実際に音を出したり体の動きを大きく使ったりして，聴き取り感じ取ったことを表すとよいでしょう。

☆準備するもの等

・拡大楽譜，音楽授業支援 DVD，旋律用：キーボード・鉄琴(1 台)，和音伴奏用：木琴（3 台），低音楽器(テナー・バス木琴でもよい)など（バチは複数組あるのが望ましい），除菌ウエットティッシュや消毒用アルコールなど

１　聴いて，感じて

◎「ハ長調の主要な和音の響きを感じ取りながら，和音と低音のパートを演奏しよう！」

⑴　拡大楽譜を見ながら指導用ＣＤの範唱を聴き，曲の特徴や構成を捉える。
・鍵盤 1 のパートが和音，鍵盤 2 のパートが低音となっていることを理解する。

⑵　旋律，和音，低音の各パートに階名を付けて，指導用ＣＤに合わせて旋律をたどる。
・1 小節に 4 拍入る（4 分の 4 拍子である）ことを理解し，楽譜上を指先で拍打ちして追う。
・教師の範奏に合わせて各パートを順に追っていくようにする。このとき，クラスをいくつかのグループに分けて活動を見合わせることで，全員の理解を図ることができる。
・音楽授業支援 DVD を見て「ハ長調の和音」について知る。「和音の転回形」の説明動画もぜひ利用したい。

２　演奏して，感じて

◎　「和音と低音の響きの移り変わりを感じながら，旋律を演奏しよう！」

⑴ 和音 3 パート，低音 1 パートに分かれて伴奏部分を，交代しながら木琴で演奏する。
・木琴は教室の 4 隅に離して配置する。また，演奏に当たっては全音符や 2 分音符を 4 分音符（×4 や×2）に置き換える。教師は拍打ちをして，速くならないようにするとよい。
・伴奏を聴きながら，教科書 p. 35 下図のように体を動かして和音の響きの違いを感じ取る。

⑵ 主な旋律と伴奏を演奏し，和音の響きの変化と旋律の動きが一体となった響きを味わう。
・主な旋律と低音，主な旋律と和音(鍵盤 1)というように，2 つのパートを重ねて演奏する。
・小節線(縦線)などで移り変わる和音の響きの変化に注意して聴く。

●評価

１　態　**ハ長調の和音の響きやその移り変わりに興味・関心をもち，それらの美しさを感じ取りながら演奏する学習に主体的に取り組もうとしている。**

２　知　**曲想と旋律，和音の響き，調との関わりを理解している。**

　　技　**和音の響きやその移り変わりを感じ取りながら，旋律や伴奏の音を聴いて表現する技能を身に付けて演奏している。**

●これからどうする？●

教科書 p. 35 の二次元コードを使い，長調の和音(ハ長調)の響きを家庭でも確かめることができます。また，鍵盤 1 の和音演奏については，指導書実践編 p. 39 の「学習の支援 4」を参考にするとよいでしょう。

第５学年　　題材４「和音の移り変わりを感じ取ろう」
♪ 和音の移り変わりを感じ取りながら合唱しましょう。　「こげよ マイケル」（２時間）

●今　何をする？●

★合唱の学習ですが，和音の聴き取りやその響きを感じ取ることに着目して「歌わないで」扱います。「歌って」表現する活動が可能となったときには，これらの能力が発揮できるようにします。ここでは，「聴く」活動を通して，その素地を育みます。

☆準備するもの等

・指導用ＣＤ（歌唱，階名唱①，階名唱②，階名唱③，カラピアノ）　・鑑賞用ＣＤ（原語）
・拡大楽譜　・指導書実践編付録「掲示物用印刷サンプル」（ドレミ風船）

１　聴いて，感じて

◎「演奏を聴いて，曲の特徴を感じ取ろう！」

⑴　曲の特徴を感じ取って聴く。
・指導用ＣＤ（歌唱）を聴き，斉唱と合唱が交互になっていることに気付くようにする。
・教科書 p. 37 の挿絵を参考にして，音楽には，会話をしている感じや，一人の呼びかけにみんなが応えるときのような，「呼びかけとこたえ」があることを知る。

⑵　歌詞「ハレルヤ」の部分で３つのパートの音の重なりが和音になっていることを知る。
・１つずつのパートを鍵盤楽器でゆっくり範奏した後，合わせて演奏するとよい。または，階名唱用の指導用ＣＤ①②③を用いたあとに指導用ＣＤ（歌唱）を聴かせてもよい。
・鑑賞用ＣＤの参考曲「こげよ マイケル」を，声の音色の違いを味わって聴く。
・主な旋律の①パートを階名で覚える。音の高さの上下に合わせて手や体を動かす。
・指導書実践編の付録「掲示物用印刷サンプル」（ドレミ風船）も活用するとよい。

２　聴いて，動いて

◎　「和音の響きやその移り変わりを感じながら聴こう！」

⑴　［斉唱で呼びかけ］，［合唱で応える］形を手や体の動きで表現する。
・②と③のパートも階名を覚え，手や体の動きで表現できるようにする。キーボードなどで音を示してもよい。このとき，夢中になって密集した形態にならないように注意する。
・①は教師が，ゆっくりした階名唱＋手や体の動きで行い，②③を子供たちが手や体の動きのみで行う。このとき，「見ているだけ」のパートもつくると，授業にゆとりと客観性が生まれ，全体に意欲も高まる。

●評価

１　知　曲想と旋律，和音の響き，調との関わりを理解している。
思・判・表　曲想と音色や音の重なり，和音の響きの違い，呼びかけとこたえとの関わりについて考え，声を合わせて曲の特徴にふさわしい表現を工夫し，どのように歌うかについて思いや意図をもっている。
２　態　和音の響きやその移り変わりに興味・関心を持ち，友達と協働して和音の響きの美しさを感じ取りながら合唱する学習に主体的に取組もうとしている。

●これからどうする？●

声が出せるようになれば，歌詞を付けて部分３部合唱をします。その際，様々な演奏形態を試すようにします。聴いている友達も，「譜例」にあるような後打ち手拍子を入れるとさらに楽しくなります。

小学校音楽科における授業再開後の指導事例集

教育芸術社　第一編集部

学校の授業再開後に音楽の授業を行う際、歌唱や一部の器楽の活動等が制限される状況が予測されるため、先にその対応の方法について例示いたしましたが、このたび改めて、各学年の教科書の題材及びそれに含まれる教材の指導において、特段の配慮を必要とするものについて、具体的な指導事例を作成いたしました。

今後の指導計画作成並びにご指導にあたって、お役立ていただければ幸いです。

第６学年　　題材１「歌声ひびかせて心をつなげよう」
♪ 明るくひびきのある声で歌いましょう　　「明日という大空」（１時間）

●今　何をする？●

★自分の声へのイメージや課題などについて考え，歌う活動が再開できたときに生かせるようにすることを知らせます。本学習では，曲の速度，旋律の反復や変化，強弱等の曲想に着目して，指揮や手による体の動きを取り入れながら曲の表現への工夫のイメージを膨らませます。

☆準備するもの等

・電子黒板やプロジェクターを活用し，拡大した歌詞や楽譜の用意
・楽譜に階名を入れたり，強弱記号の意味を調べたりするワークシート
・メトロノームを用意し，指揮棒も準備できるといい

１　見て，聴いて

◎「拡大した楽譜を指でなぞりながら聴き，曲全体の感じを捉えよう！」

⑴　p. 11 の歌詞を見ながら指導用ＣＤの範唱を聴き，曲全体の感じを捉える。
・気持ちが込められている言葉に印を付けて聴くようにする。

⑵　楽譜を指でなぞったり，リズムを手拍子で打ったりしながら，旋律の特徴や曲の構造 a―a´―b の反復・変化を捉える。
・最初の音の指の位置を決めて，範唱を聴きながら拡大楽譜を指でなぞるようにする。
・リズムを手拍子で打ちながら聴き，シンコペーションのリズムや音符の長さにも気付かせていく。

２　聴いて，動いて

◎　「手を使って表現の工夫をしよう！」

⑴ メトロノームの役割を知り，曲に合った速さを感じる。
・教科書に提示してある♩＝１１６～１２６をメトロノームで示しながら，教師の演奏でその違いを聴き取る。速度記号は作曲者の意図であり，曲想を特徴付ける要素の一つであることを知る。どの速さがいいと感じたか挙手で決め，教科書に速度記号を書きこむ。

⑵　歌う代わりに，体の動きで自分が演奏したい表現を表す。
・教科書やワークシートに自分が表現したい強弱記号を書き込んで演奏への思いを記入する。
・体を動かす際には自分の席を移動しないことを条件にして，手の上下運動で強弱を表すなど独自の方法を大切にする。指揮をすることも有効であることを知らせる。
・指揮の希望が多い場合には，教科書 p. 37 を参照して，強弱表現についての工夫を取り入れさせるとよい。
・指導用ＣＤや選んだ速度の教師のピアノ演奏を聴きながら各自の表現で演奏を楽しむ。

●評価

知　**曲想と音色，旋律の反復や変化，歌詞の内容との関わりについて理解している。**

思・判・表　**曲想と旋律の反復や変化，速度との関わりについて考え，曲にふさわしい表現を指揮や体の動きを工夫して，どのように表現するか思いや意図をもっている。**

●これからどうする？●

・教室での生活の中で時間を見付けて指導用ＣＤをかけるようにします。歌詞が希望に満ちた内容であるので，この時期の児童を明るい気持ちにすることができます。
・この機会に階名や記号等について理解を深める復習のプリントを自宅学習用に持たせ，今後の表現の工夫に結び付けられるようにしましょう。

第６学年　　題材２「いろいろな音色を感じ取ろう」
♪ パートの役割や楽器の音色の特徴を生かして合奏しましょう。**「ラバーズ コンチェルト」（３時間）**

●今　何をする？●

★パートの役割を理解し生かした楽器の編成でグループ演奏をする活動を，３つの学習形態で行います。自分が選んだパートは，主な旋律を生かすために思いや意図をもって表現の工夫に取り組みます。話し合う場を減らし，互いの考えをワークシートに書き込んで進めます。リズム伴奏は後日に加えて完成させることを知らせて学習に入ります。

☆準備するもの等
・拡大楽譜，p. 20 の計画表に打楽器の分担を加えたグループの拡大計画表（打楽器は後日に）

1　**ソーシャルディスタンス座り**で・・・見て，聴いて，とらえる

◎「パートの役割と演奏楽器について考えよう」

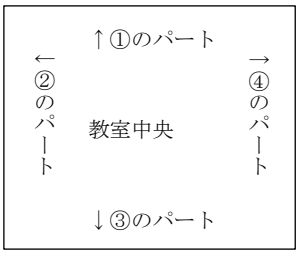
⑴　拡大楽譜を見ながら指導用ＣＤの範奏を聴き，曲の特徴や構成について捉える。
・８小節の旋律が後半で反復・変化している構造や，４つのパートの構成を理解する。
・パートに合う楽器を選んでグループで演奏することを告げ，それぞれのパートの特徴を捉える。また，後日にリズム伴奏を加えて完成させることも知らせる。
・♭シの音を確認し，キーボード，木琴，鉄琴などで①のパートを演奏してみる。

⑵　教科書 p. 18 を読み，パートの役割について考え，自分が演奏したいパートを決める。
・②③④のパートを，教師が弾くピアノに合わせて手拍子でリズム打ちをして特徴を捉えるようにする。足で４拍子の拍を打ちながら，リズム打ちをするのもよい。
・教科書 p. 20 を参考に，自分がイメージした楽器とパートをグループで相談して決める。
・指導用ＣＤに合わせ，選んだパートをボディーパーカッションでリズム打ちして合わせる。

2　**四角形の外向きパートグループ座り**で・・・演奏して，感じて，工夫する

◎　「パートごとのまとまりになり，自分の演奏ができるようにする」

⑴　①②③④のパートのグループ分けをして，同じ旋律でグループを組み，教室の外側を向いて練習と表現の工夫に取り組む。
・個々に練習時間を確保後，指導用ＣＤに合わせて何回も練習する。そのときに最初にグループの演奏で計画した演奏に合う音色にするための工夫をマレットの種類等でも示すようにする。



3　**四角形の外向きグループ座り**で・・・演奏して，工夫を感じ取る

◎「グループごとのまとまりになり外向きで合わせて，中央向きで発表する」

⑴ ２時間目の形態を本時ではグループの場所とし，練習は教室の外側を向いて行う。発表のみ，中央を向き行い，互いに聴き合い，感想を記録する。後日，感想は教師がまとめてプリントにして配布し互いの演奏の評価に役立てる。

●評価●

1　知　曲想を楽器の音色，リズム，旋律の特徴，音の重なりと関わりについて理解している。
態　曲想とリズム，旋律の特徴，音の重なりとのかかわりに興味・関心をもち，パートの役割や特徴を生かして演奏する学習に主体的に取り組もうとしている。

2　思・判・表　楽器の音色やリズム，旋律の特徴，音の重なりを聴き取り，それらの働きが生み出すよさや面白さ，美しさを感じ取りながら，聞き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え，演奏の仕方や全体のバランスを工夫し，どのように演奏するか思いをもっている。

3　技　思いや意図に合った表現にするために必要な楽器の音色や響きに気を付けて，各声部が重なり合う響きを聴き合いながら，音を合わせて演奏する技能を身に付けて演奏している。

●これからどうする？●

後日教師がまとめた友達の感想のプリントを読み，次にリズム伴奏を加えて演奏するときの参考にします。この曲の演奏には様々な編成の音源も発売されていますので，鑑賞するとよいでしょう。

第６学年　　題材２「いろいろな音色を感じ取ろう」
♪ 声のひびきが重なるおもしろさを生かして，音楽をつくりましょう。
「ボイスアンサンブル」（２時間）

●今　何をする？●

★音楽づくりでは，音の素材のよさを生かすことが大切です。本来ならば，声の多様な響きを扱いたいところですが，ここでは，楽器や手・足拍子などの音色を生かして，リズムアンサンブルを一人で即興的につくったり，友達と距離を保って三人組でつくったりします。

☆指導用ＣＤには，ボイスアンサンブルの例が示されているので，それを参考に楽器に置き換えて表現することもできます。また，インターネットを活用してリズムアンサンブルを聴くこともできます。

１　楽器や手・足拍子等でリズムづくり

◎「音を声で表すとしたら？」

⑴　教科書 p. 22 のリズムを心の中で「言葉（ツツ，タン，ドゥン等)」で唱えながら，それに合う手・足拍子の音を選んで表現する。

例）①　ツツタツ～＝片手を太鼓面に見立てて，ツは手のひらの端，タは中心を強く打つ。
②　ウンタン～＝タンで前肩を打つ。
③　ドゥンドゥ～＝ドゥンは右足，ドゥは左足を踏む。逆でもよい。

⑵　言葉の例を参考にして，①～③の「言葉」を考え，楽器を選んで三人組で合わせる。

例）①　チチカチ～＝カウベル（チはミュート）　②　ウンパン～＝タンブリン
③　ボン　ボ～＝コンガ　※２回～４回繰り返し，強弱や速度を変えるようにする。

２　リズムアンサンブルづくり

◎「『言葉』から，打楽器や手・足拍子等でつくろう！」

⑴　教科書 p. 23 に示されたリズムを使って，「言葉」で①②のリズムをつくり，一人で表現できる手・足拍子で即興的に表現する。

例）　①　ひざ打ち　4/4　・　・　・　・｜・　・　・　テケテケ　:||
②　手拍子　4/4　・　パンウタ　・｜・　パンパン　・　:||

・③を全員が足拍子で演奏し，それにのって各自がつくった①＋②のリズムを２回繰り返し，リレーで演奏する。※始めと終わりは全員で　③を足拍子で演奏する。

⑵　三人組で⑴でつくったリズムに合う打楽器を選び，パートの重ね方やリズムのつなげ方，終わりの部分を工夫し，まとまりのあるリズムアンサンブルをつくる。

・つくる際は，譜面台を間に置くなどして，児童間の距離を保つようにする。

●評価

知・技　**楽器等の音色，リズムのつなげ方や重ね方について，それらの働きが生み出すよさや面白さと関わらせて理解し，反復，変化，音楽の縦と横との関係を用いて，全体のまとまりを意識した音楽をつくる技能を身に付けてリズムアンサンブルをつくっている。**

思・判・表　**楽器等の音色，リズムの特徴，音の重なりを聴き取り，それらの働きが生み出すよさや面白さ，美しさを感じ取りながら，楽器等の音色を生かして即興的に音のつなげ方や重ね方を表現することを通して音楽づくりの発想を得たり，音を音楽へ構成することを通して，どのように全体のまとまりを意識した音楽をつくるかについて思いや意図をもったりしている。**

態　**楽器等の音色やリズムの特徴，音の重なりに興味・関心をもち，楽器等の響きが重なり合う面白さを生かして音楽をつくる学習に主体的に取り組もうとしている。**

●これからどうする？●

声で表現できなくても，心の中でツツタツ～と唱えながら楽器を演奏することは，リズム唱にもつながりリズム表現にはとても有用な学習です。合奏の学習にも生かすことができます。

第６学年　　題材「旋律の特徴を生かして表現しよう」
♪ 歌詞と曲想との関わりに気を付けて歌いましょう　「われは海の子」（１時間）

●今　何をする？●

★日本人に長く歌われ愛されてきたその理由を，歌詞や旋律，リズムなど曲を構成する要素からその魅力を発見するようにします。魅力がいくつ見付けられるかを競いながら取り組むのも楽しいと思います。３番までの歌詞から，自分が表現したい歌詞を選んで，曲想表現の工夫を書き込みます。後日歌うことを告げます。

★指導用ＣＤには演奏が２種類入っているので，それらを比較聴取して自分のイメージにどちらが合っているか考えて，次に歌えるときの伴奏を決めておくのもよいでしょう。

☆準備するもの等

・拡大した縦書きの歌詞や楽譜
・気付きを記述できるようなワークシート
・表現の工夫を書き込む楽譜のプリント

１　見て，聴いて

◎「演奏を聴き，長く多くの人に愛されてきた理由を考えよう！」

⑴歌詞を見ながら演奏を聴き，曲全体の感じを捉える。

・言葉について解説を読んだり海の写真を見たりして，歌詞の内容を捉えるようにする。
・曲の山と歌詞の内容との関連について気付くようにする。

２　聴いて，動いて

◎「旋律の音の動きや，リズムの違いの効果を捉え，表現を工夫しよう！」

⑴拡大楽譜を指でなぞったり，手拍子で旋律のリズム打ちをしたりして聴き，旋律やリズムの特徴を捉える。

・指でなぞると，音の上がり下がりが海の波のようになっていることに気付くことができる。
・楽譜を見ながら手拍子でリズム打ちをし，ター ンタ タン タン と タン タン ター ンタ の２種類のリズムに気付くようにする。
・タン を足，ターンタ と変えると２種類のリズムの違いが明確になる。このときに歌詞とも関連付け，リズムの違いと歌詞との結び付きの効果についても考えるようにしたい。

⑵自分が表現を工夫したい歌詞を１番～３番から選び，どう表現したいか楽譜に書き込む。

・強弱記号や，大事にしたい言葉についての表現の仕方等の記述を書き入れる。
・各自で記録した楽譜を拡大して全員に提示し，友達の表現のよさに気付くようにする。
・歌えるときがきたら，それぞれの表現で歌うことを告げる。

●評価

知　曲想と歌詞の内容や，旋律の音の動き，リズムの特徴，強弱との関わりを理解している。

思・判・表　曲想と歌詞の内容や，旋律の音の動き，リズムの特徴，強弱との関わりについて考え，曲の特徴にふさわしい表現を工夫し，どのように歌うかについて思いや意図をもっている。

●これからどうする？●

教科書 p. 25 の二次元コードについて触れ，自宅でも演奏を聴くことができることを知らせます。また，この曲について家族と話し合い，曲についての思いをインタビューすることも，曲の魅力を広げるよい機会であることを知らせます。

第６学年　　題材７「日本や世界の音楽に親しもう」
♪ 日本に古くから伝わる音楽に親しみましょう。　　「越天楽今様」（1 時間）

●今　何をする？●

★「越天楽今様」については，歌わない学習とするものの，比較して聴く活動を行うことにより，曲想と音楽の構造との関わりについて理解するとともに，歌い方の工夫を考えるようにします。

1　聴いて，理解して

◎　「越天楽今様」の曲想と音色や旋律の関わりについて理解しよう

⑴　教科書の楽譜を見ながら，指導用ＣＤ（Disc 2-1）の「越天楽今様」を聴き，鑑賞用ＣＤ（Disc 1-29）の雅楽「越天楽」の演奏との違いを発表する。

・　前時に雅楽「越天楽」を聴いておき，その冒頭部分を再度聴くとよい。
・　曲想と音楽を形づくっている要素との関わりを結び付けて発表する。
・　「越天楽今様」と雅楽「越天楽」（冒頭部分）を聴いて，旋律の流れを手の動きで表し，気付いたことを発表する。

⑵　教科書の楽譜を見ながら，指導用ＣＤ（Disc 2-1）「越天楽今様」と鑑賞用ＣＤ（Disc 1-31）「越天楽今様」の演奏を聴き比べ，演奏の違いを発表する。

・　声の音色，旋律に着目して聴き，それぞれの演奏から感じ取った曲想と音楽を形づくっている要素との関わりを結び付けて発表する。

2　聴いて，歌い方の工夫を考えて

◎　「越天楽今様」の歌い方の工夫を考えよう。

⑴　「越天楽今様」の歌い方の工夫を考える。

・どのような歌い方をするのか，楽譜に書き込んだり，歌詞の書き方の工夫で表したりする。（教科書４年 p.27「こきりこ」，教科書５年 p.57「かりぼし切り歌」の表記を参考にするとよい。その際は，実際にこれらの曲を聴く活動と表記の提示をする。）
・実際に歌って工夫することはできないが，例えば，耳をふさいで口を開かずにハミングのように音を小さく出しながら工夫を考えることもできる。（その際はマスクを着用しながらの活動を心がける。）

⑵　児童が考えた歌い方の工夫を教師が歌う演奏を聴いて，そのよさや違いを感じ取る。

・教師と児童の距離が十分に保てる場合に，教師はマスクをして児童が考えた歌い方を児童の代わりに歌い，児童はその演奏を聴いて，友達が考えた歌い方の工夫のよさや違いを感じ取る。（教師の演奏の録音を次時に聴くことも考えられる。）

●評価

知　**「越天楽今様」の曲想と音色，旋律との関わりについて理解している。**

思・判・表　**歌詞の内容や音色，旋律の特徴を聴き取り，それらの働きが生み出すよさや面白さ，美しさを感じ取りながら，聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え，日本に古くから伝わる歌の特徴にふさわしい表現を工夫し，どのように歌うかについて思いや意図をもっている。**

●これからどうする？●

歌い方の工夫は本来歌い合い，聴き合いながら活動を深めていくことが大切です。このようなことができるようになるまでは，聴く活動を深め，「歌って工夫を表現したら」ということを想定して学習を進めます。それが，中学校での雅楽「平調　越天楽」を鑑賞する際にも生きて働く力になります。